

# 第13回国立公園満喫プロジェクト有識者会議

## 議事次第

日時：令和2年8月3日（月）

14：00～16：00

場所：環境省第1会議室

### 1. 開会

### 2. 議事

（1）国立公園満喫プロジェクトの実施について

（2）その他

### 3. 閉会

## 配付資料一覧

- 資料 1 新型コロナウイルス感染拡大による国立公園等における影響と回復状況
- 資料 2 新型コロナウイルスにより生じた旅行・観光に対するニーズや志向変化
- 資料 3 国立公園における利用者回復に向けた取組及び国立公園満喫プロジェクトの8公園を中心とした取組状況
- 資料 4 2019年国立公園外国人利用者数の結果
- 資料 5 国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組方針案
  
- 参考資料 1 今後の自然公園制度のあり方に関する提言（概要）
- 参考資料 2 国立公園訪日外国人利用者数の推計について
- 参考資料 3 国立公園満喫プロジェクト（2016～2020年）の総括
- 参考資料 4 国立公園満喫プロジェクト有識者会議 委員名簿

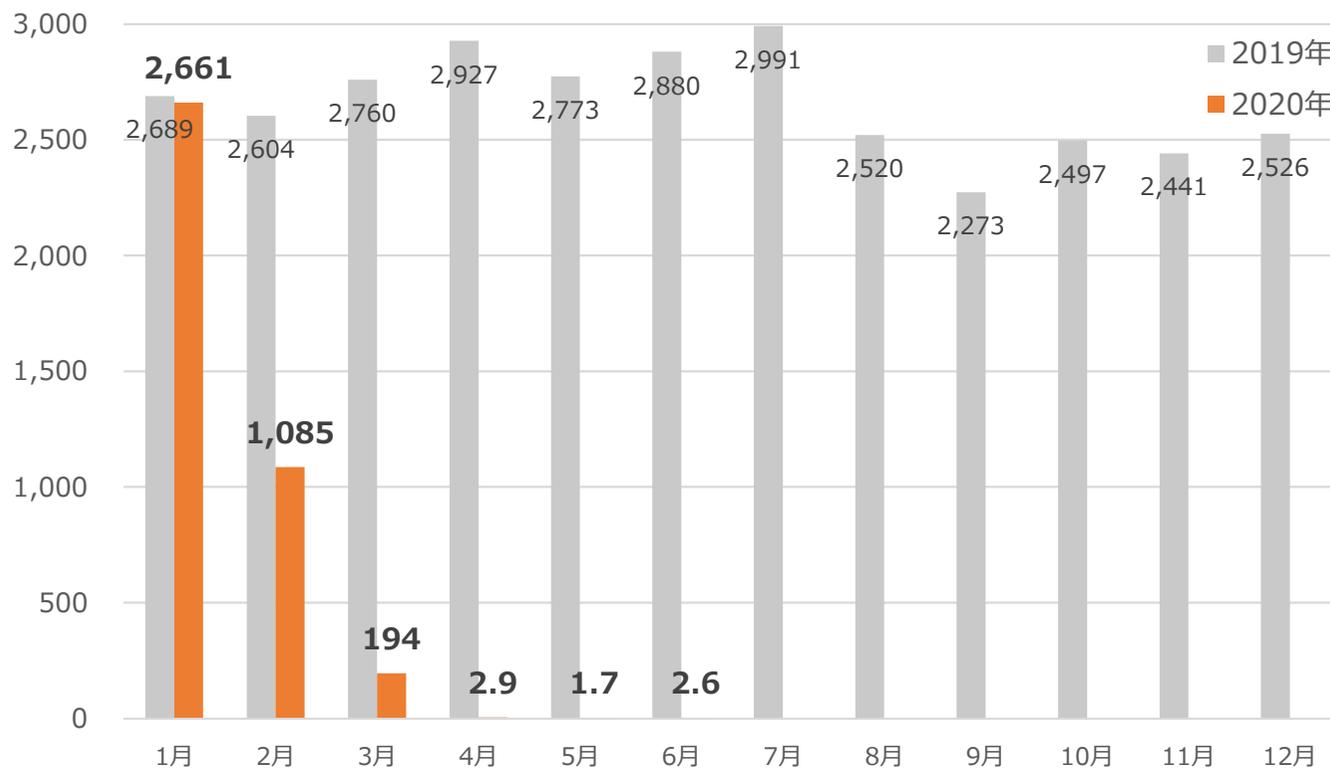


# 新型コロナウイルス感染拡大による 国立公園等における影響と回復状況

# (1) 国内観光全体の状況 ①訪日客の入込状況

- 訪日外客数は2020年1月以降減少し続け、4月から6月にかけて3ヶ月連続で**前年同月比99.9%減**。
- 7月現在、検疫強化、査証の無効化等の新型コロナウイルス感染症の水際対策が継続しており**観光目的**での入国は**難しい状況**。

訪日外客数の月別推移（単位：千人）

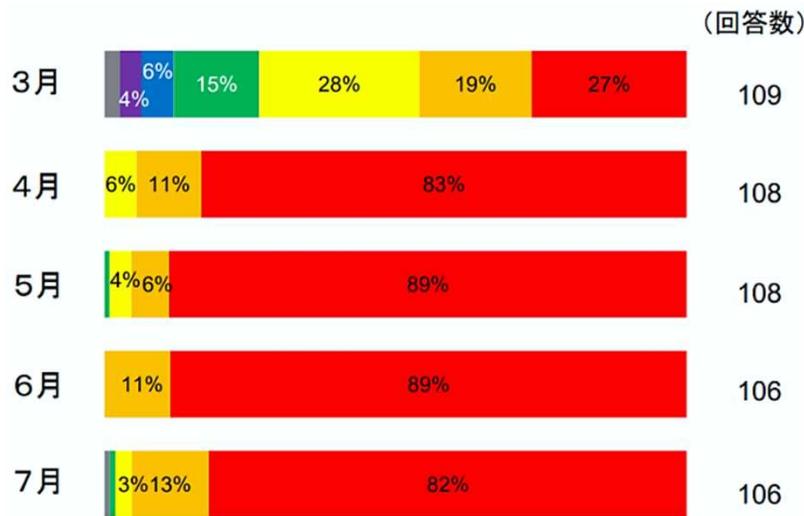


出典：日本政府観光局

# (1) 国内観光全体の状況 ②旅行・宿泊業の状況

• **宿泊予約**については4月以降は8割以上の施設が70%以上減少となり、今後も極めて**厳しい状況が続く見込み**。**大手旅行会社**の予約人員については、4月及び5月は海外旅行、国内旅行、訪日旅行の全てが取扱ゼロに近い状況。6月以降も極めて**厳しい状況が続く見込み**。

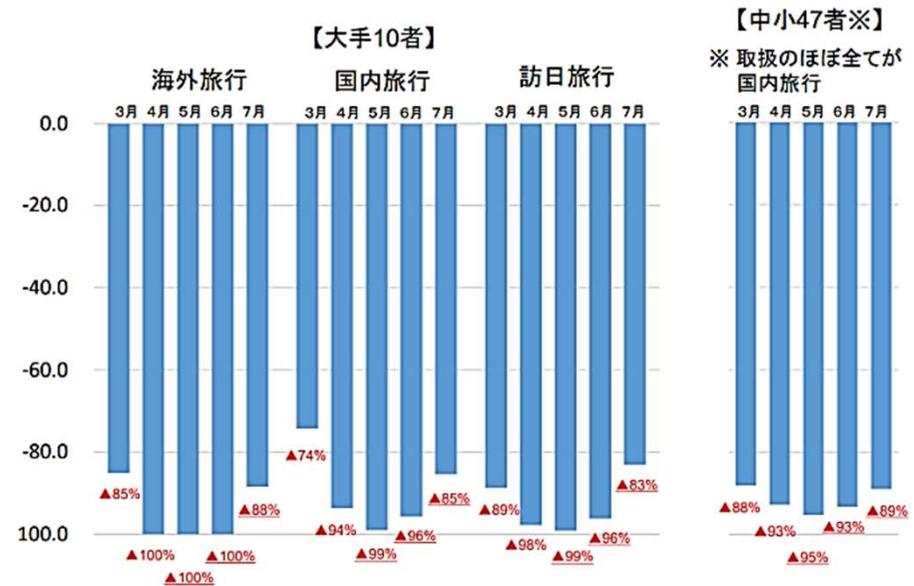
(第37回観光戦略実行推進会議 観光庁資料より)



(調査方法：宿泊事業者に対して、業界団体経由で影響をアンケートし、111施設から回答)

出典：観光戦略実行推進会議 資料

宿泊予約状況 (前年同月比 ※ 6・7月は見込)



(調査方法：日本旅行業協会、全国旅行業協会経由で、大手10社、中小47社に影響をヒアリング)

出典：観光戦略実行推進会議 資料

旅行予約人員 (前年同月比 ※ 6・7月は見込)

## (2) 国立公園への影響 各種施設、登山道、関連事業者の状況

- 国立公園内でも4月より**多くの宿泊施設や観光施設が休業**、解除を受けて徐々に再開。
- **直轄ビジターセンターと野営場も4/16緊急事態宣言を受けて全て閉館・閉鎖**。宣言解除後、感染予防対策を行い地域毎に**徐々に再開**。7月現在、ほぼ全ての施設が再開。
- 民間事業者での廃業が発生したほか、感染拡大防止の対応のため、山小屋において営業休止・延期、観察会や各種イベントの中止など今後の利用への影響も生じている。



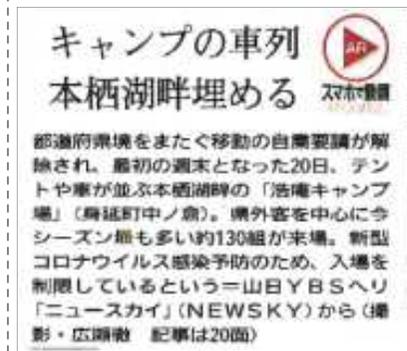
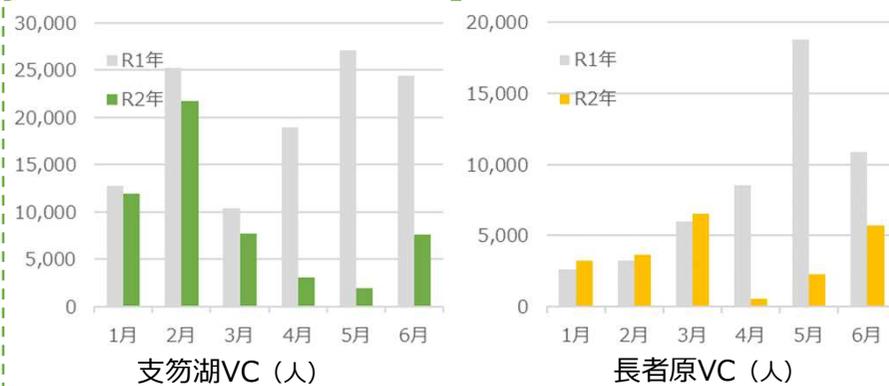
- 富士山は今シーズン**閉山**(全山小屋休業、山頂への登山道閉鎖)。
- 北アルプスは7月中旬までの山小屋営業休止。7月中旬以降、**順次再開**(宿泊定員の削減、消毒等の対応実施)。

- 廃業事例：宿泊施設4件(1件 川湯温泉/阿寒摩周、3件 青森市、十和田市、鹿角市/十和田八幡平隣接) タクシー業者1件(伊勢志摩)
- 夏以降のイベント等の中止：カムイミナの今年度中止・別イベントへの企画変更(阿寒湖温泉/阿寒摩周)、桜島納涼観光船(霧島錦江湾)、自然観察会(ウミガメ観察会(吉野熊野)、全ての観察会(大台ヶ原VC))、海水浴場閉鎖、各種夏祭り中止など



## (4) 利用の回復状況 ビジターセンター、野営場 等

- ビジターセンター利用者は、6月には**概ね3~5割程度まで回復**。県内や近隣県からの利用が多いところなど、7割~ほぼ例年通りの利用になっている箇所も。
- 駐車場（自然公園財団管理運営）データでは、マイクロバス・大型バス等の**団体利用は未だ回復せず**。一方、乗用車は5割まで回復。二輪車は昨年比増加。  
※全国キャンプ場の予約サイト「なっぷ」より
- 野営場の人気が高まっており、全国予約サイトの7月8月の予約率は昨年実績の約8割に※
- 八幡平（ドラゴンアイ）や浄土平などSNS・メディア等をきっかけに多くの来訪者が訪れた例も。



- 2~3月の指宿野営場の利用者は昨年比約2倍
- 支笏湖地域では自粛解除後、多くの利用者が来訪し、前年比程度
- 瀬戸内海エリアで週末サイトが埋まり、7~8月予約は5~6割

環境省直轄ビジターセンターの利用者数の事例



国立公園等（自然公園財団管理駐車場）2車種の入庫状況



Twitter (2020.6.7)  
「実は福島は海外だった」という浄土平の風景写真がツイッター上で話題となり週末に多くの来訪者が訪れた



# (5) 利用の回復・促進に向けた取組 その他、割引・補助等

- 市町村民、道県民を対象とした宿泊施設や飲食の利用への**補助・助成**等を行う利用促進キャンペーンが盛んにおこなわれている。
- 宿泊割引・補助、観光施設割引、商品券などいくつかの種類があり、売り切れや抽選が必要となるなど**好評**を得ている。
- 宿泊施設の予約状況は、例えば南紀白浜や瀬戸内等は7～8月に前年度5～6割に

## 【北海道】どうみん割

- 道内での宿泊旅行商品などを販売する観光関連事業者に、その代金を割引く制度。
- 宿泊最大10,000円割引や日帰り旅行アウトドア体験最大5,000円割引などを用意。



## 【栃木県】県民一家族一旅行推進事業

- 県民の県内旅行に対する宿泊料金の割引及び有料道路の無料化を行う。



## 【秋田県】プレミアム宿泊券・飲食券

- 通常より安価に宿泊・飲食ができるチケットを販売。



## 【鳥取県】#We Love 鳥取キャンペーン

- 県民の宿泊・観光施設利用費用の2分の1（上限3,000円）を割引。



## 【鹿児島県】ディスカバー鹿児島

- 1人最大1万円の宿泊助成とグループ1組あたり3千円のタクシー利用助成。



## 【三重県】体験教育旅行への支援

- 志摩市内で修学旅行の受入れを行っている自然体験事業者では、9月以降の予約が好調。
- 三重県では、体験教育旅行を実施する県内学校の児童・生徒1人あたり1千円～5千円を補助



# 新型コロナウイルスにより生じた 旅行・観光に対するニーズや志向変化

# 目次：

---

1

## コロナ収束後の旅行

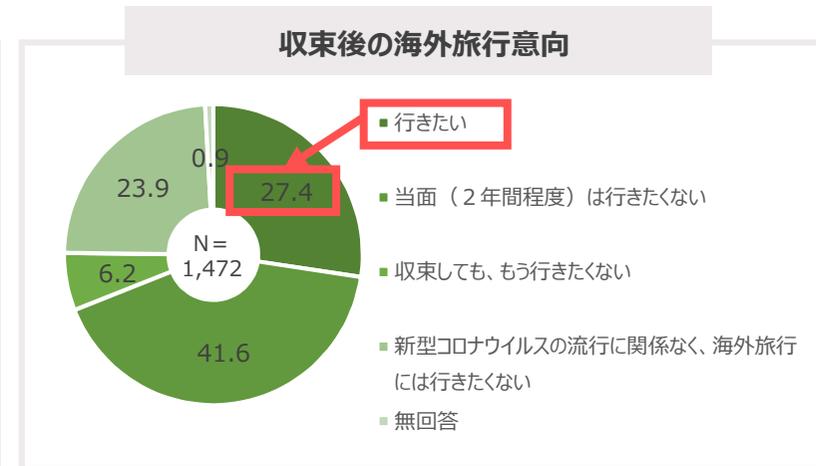
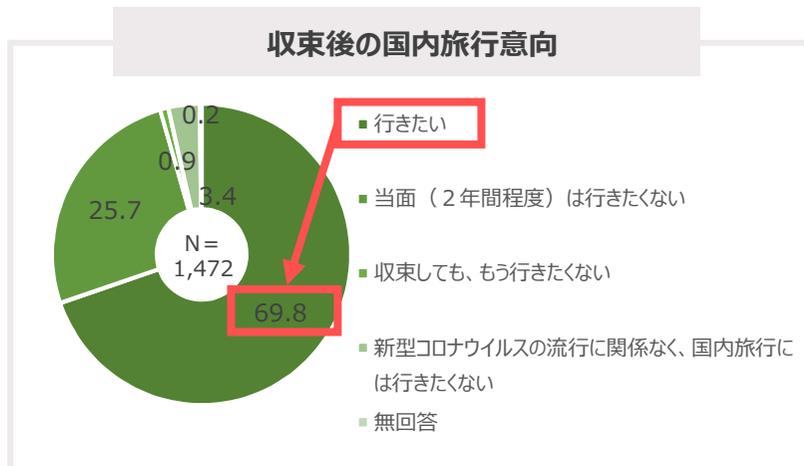
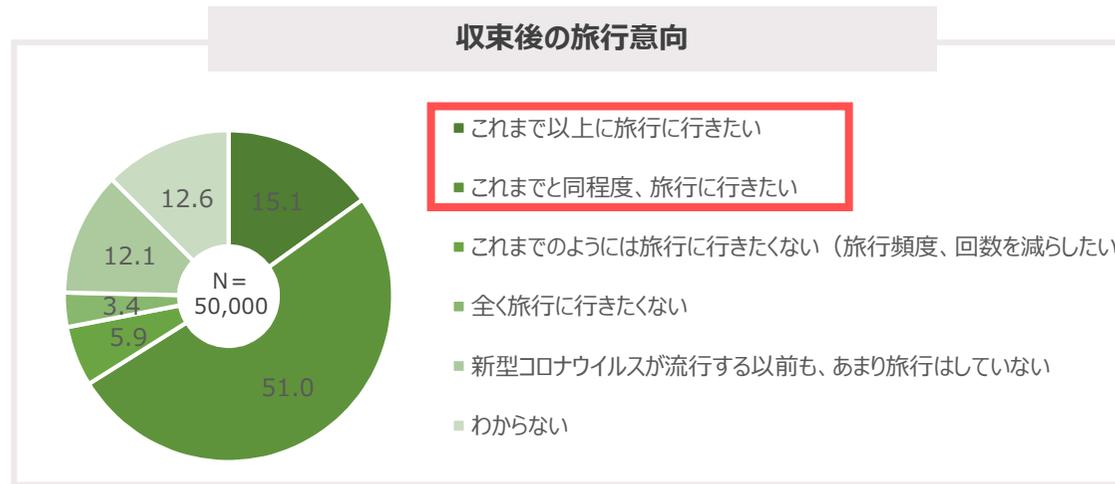
- (1) 収束後の旅行意向
- (2) 収束後の旅行の位置づけ
- (3) 旅行再開のタイミング・理由
- (4) 収束後の旅行先に対する意識
- (5) 海外市場の動向

2

## ワーケーション

- (1) 働き方の変化
- (2) ワーケーションへの意識
- (3) ワーケーション実施の条件

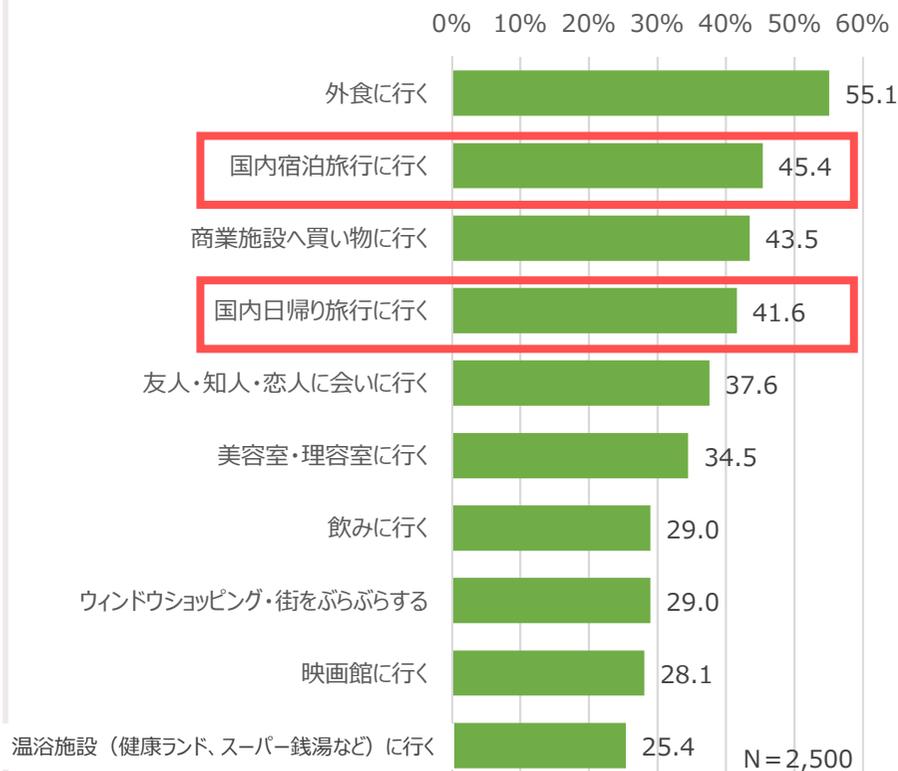
# 1. コロナ収束後の旅行（1）収束後の旅行意向



- 「これまで以上」+「これまでと同程度」旅行に行きたい人が全体の約3分の2。
- 当面（2年間程度）は、国内旅行意向＞海外旅行意向。

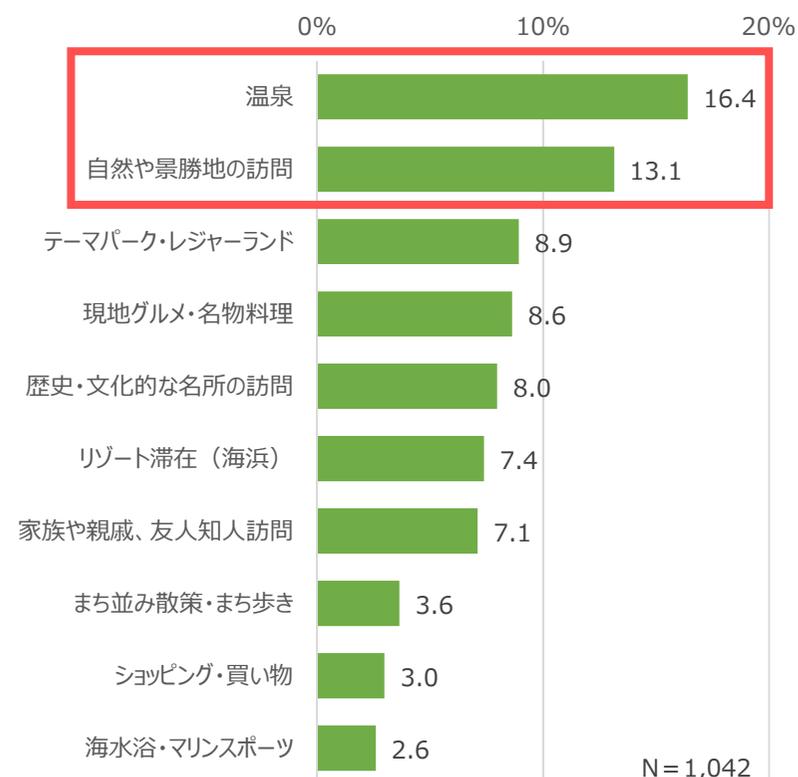
# 1.コロナ収束後の旅行（2）収束後の旅行の位置づけ①

緊急事態宣言解除後、したいこと（上位10位/複数回答）



出典：Cross Marketing 新型コロナウイルス生活影響度調査（第6回）

新型コロナ収束後、旅行先で行いたい活動（上位10位/複数回答）

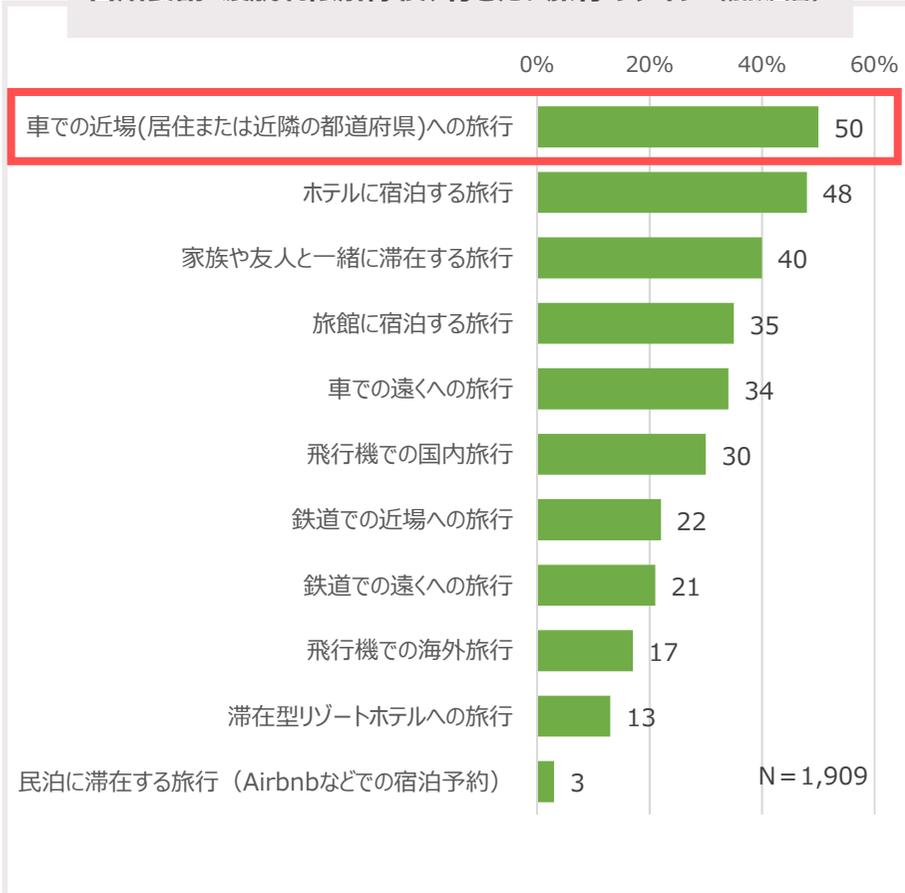


出典：JTBF 旅行者意識調査

- 「国内宿泊旅行」は、緊急事態宣言解除後にしたいことで、「外食」に次いで2位。
- 旅行内容としては、「温泉」と「自然・景勝地への訪問」が人気。
- 近年、アウトドア用品市場が好調に推移。（出典：株式会社矢野経済研究所リリース2020年5月11日）
- 新型コロナ流行後、アウトドア用品の売れ行き好調も後押しか。（出典：日本経済新聞2020年7月3日12面）

# 1. コロナ収束後の旅行（2）収束後の旅行の位置づけ②

自粛要請・渡航制限解除後、行きたい旅行のタイプ<sup>①</sup>（複数回答）



出典：J.D.パワージャパン 移動自粛解除を目前にした「旅行に関する意識調査」

渡航や外出自粛が緩和された場合、どんな旅行にいつ頃行きたいか（単数回答）

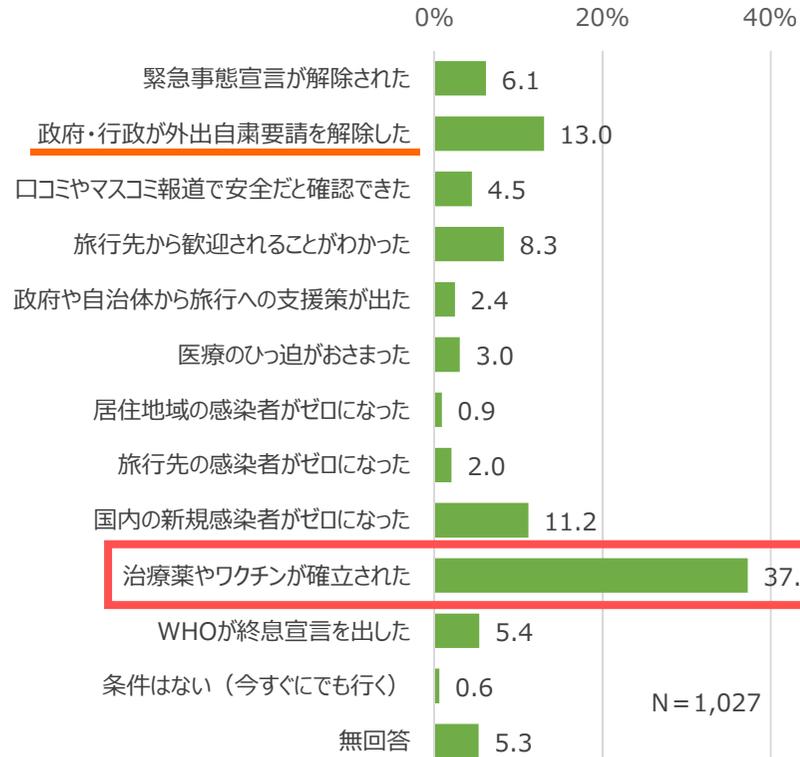


出典：JTB・JTB総合研究所 新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化及び旅行再開に向けての意識調査2020

- 自粛要請解除後は、「車で」「近場の」旅行が人気。
- 人気の行き先は、自然が多い地域 > 人が少ない地方都市 > 大都市圏の順。

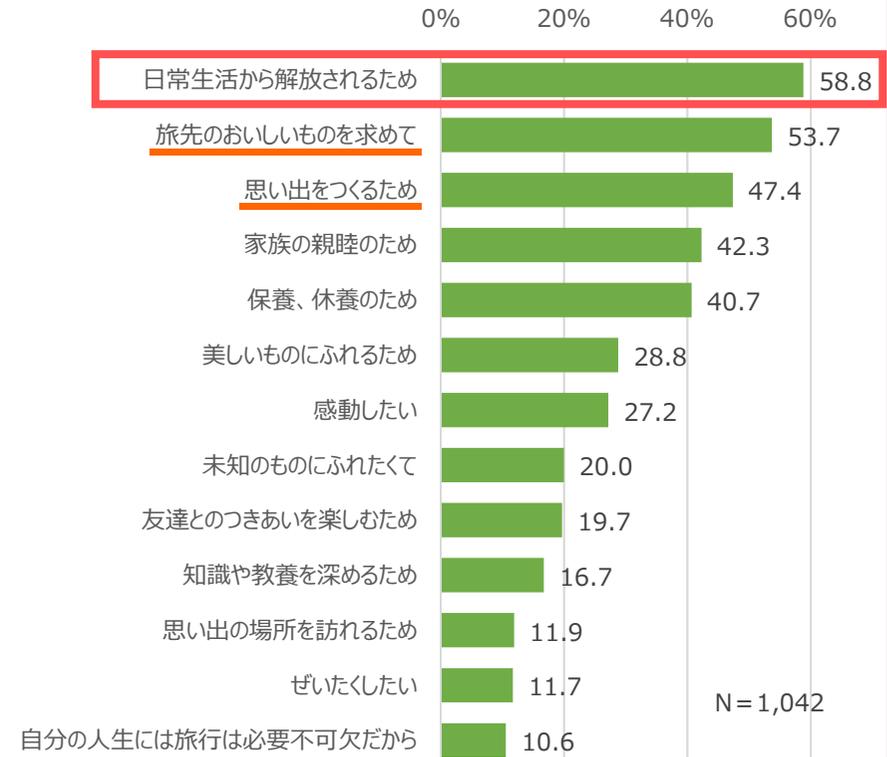
# 1. コロナ収束後の旅行（3）旅行再開のタイミング・理由

国内旅行再開のタイミング（複数回答）



出典：JTBF 旅行者意識調査

新型コロナ収束後、旅行に行きたい理由（10%以上のものを抜粋/複数回答）

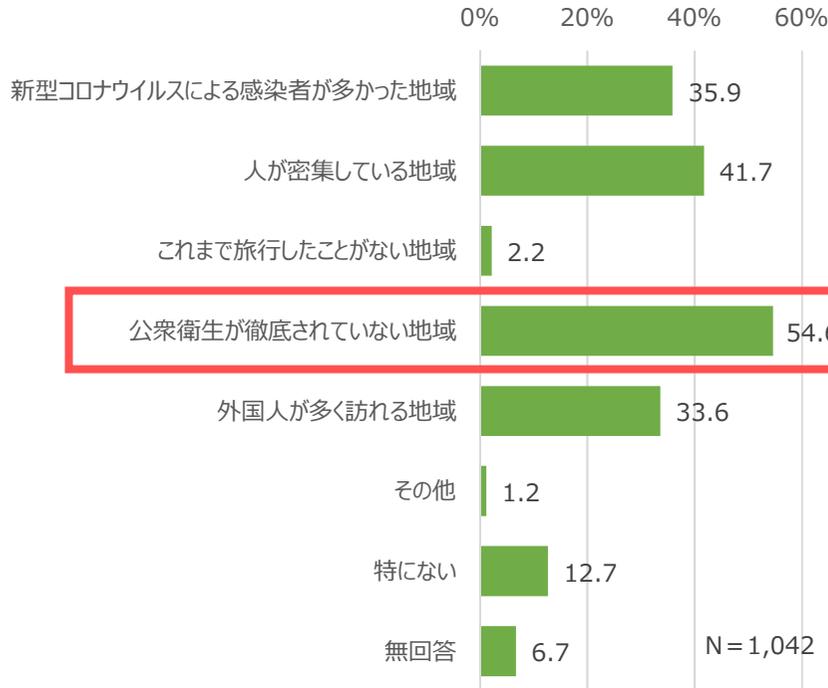


出典：JTBF 旅行者意識調査

- 旅行再開のタイミングは「治療薬・ワクチンが確立された時」が最多。
- 旅行の理由は「日常からの解放」、次いで「旅先のおいしいもの」、「思い出をつくるため」。

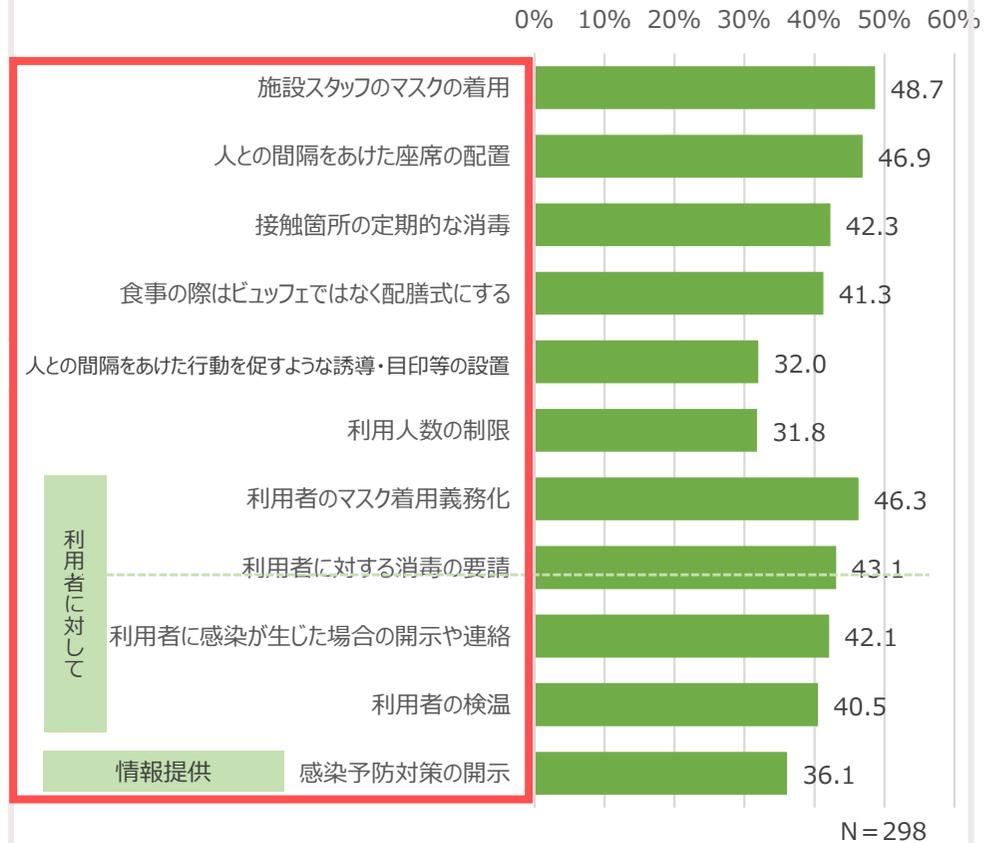
# 1. コロナ収束後の旅行（４）収束後の旅行先に対する意識①

新型コロナ収束後、あまり行きたくない地域（複数回答）



出典：JTBF 旅行者意識調査

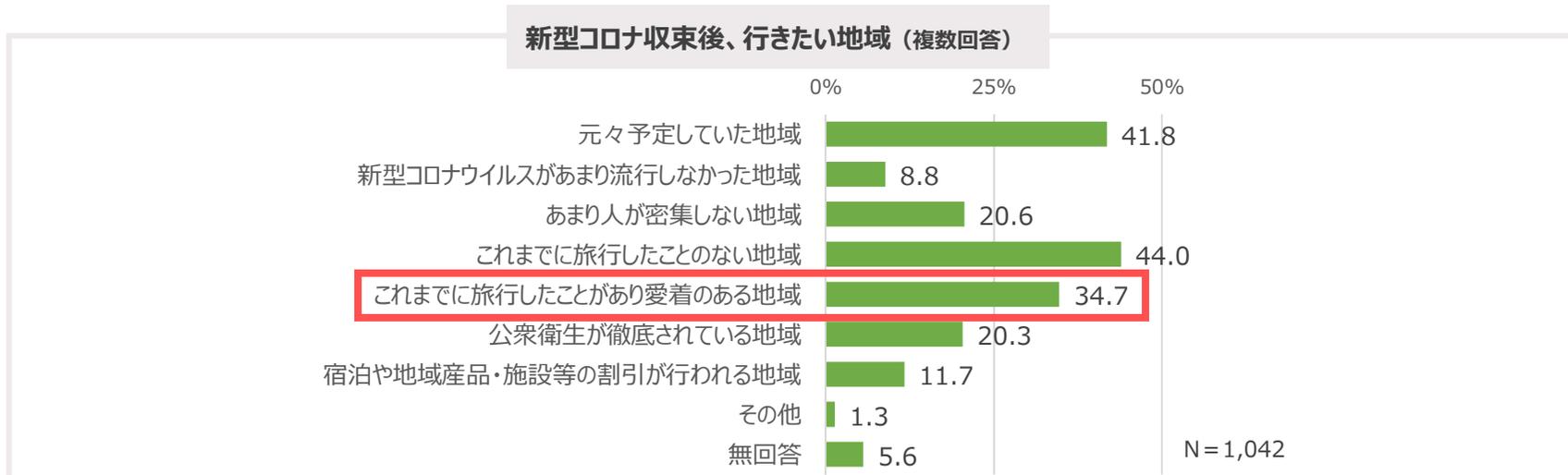
新型コロナ収束後、旅行先に求めること（30%以上の項目/複数回答）



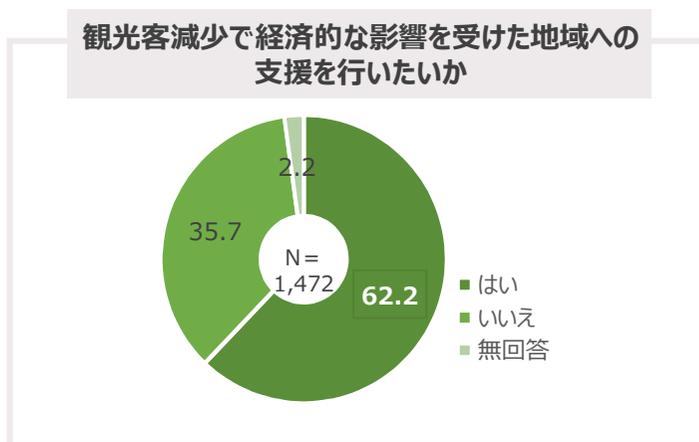
出典：インテージ 自粛要請解除後 初の旅行はどうなる？

- 旅行再開時の旅行先に求められるのは「徹底した公衆衛生」。
- 施設内での対応のみならず、他の観光客への対応も求められている。

# 1.コロナ収束後の旅行（4）収束後の旅行先に対する意識②



出典：JTBF 旅行者意識調査



出典：JTBF 旅行者意識調査

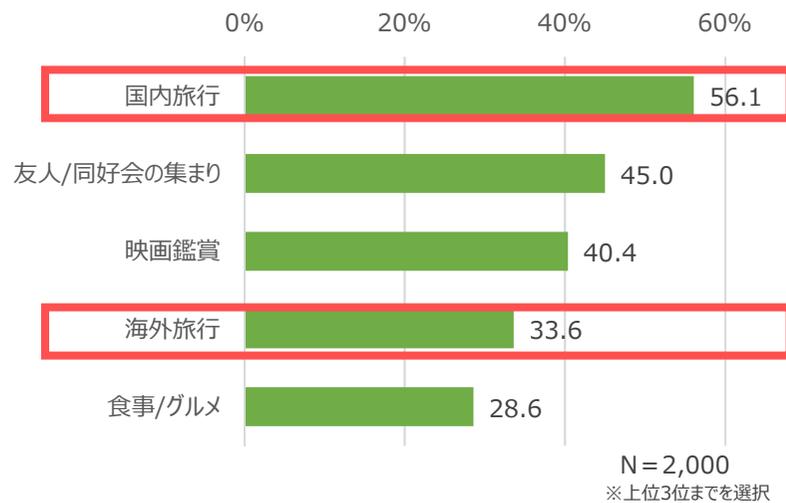


出典：JTBF 旅行者意識調査

- 予定地域、行ったことのない地域以外に、約3分の1が愛着のある地域に訪れたいと回答。
- 多くの人々が、地域への支援意思（商品購入、旅行訪問）を持っている。

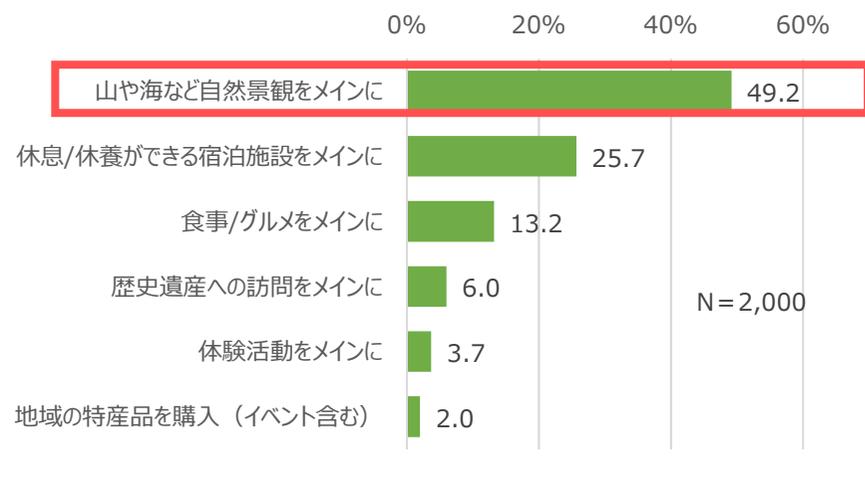
# 1. コロナ収束後の旅行（5） 海外市場の動向① <韓国>

【韓国】新型コロナ終息後、最も実施したい余暇活動  
(上位5位/複数回答)



出典：韓国文化観光研究院 Post-COVID-19による国内旅行調査  
한국문화관광연구원 Post-코로나19에 따른 국내여행 조사 보고서

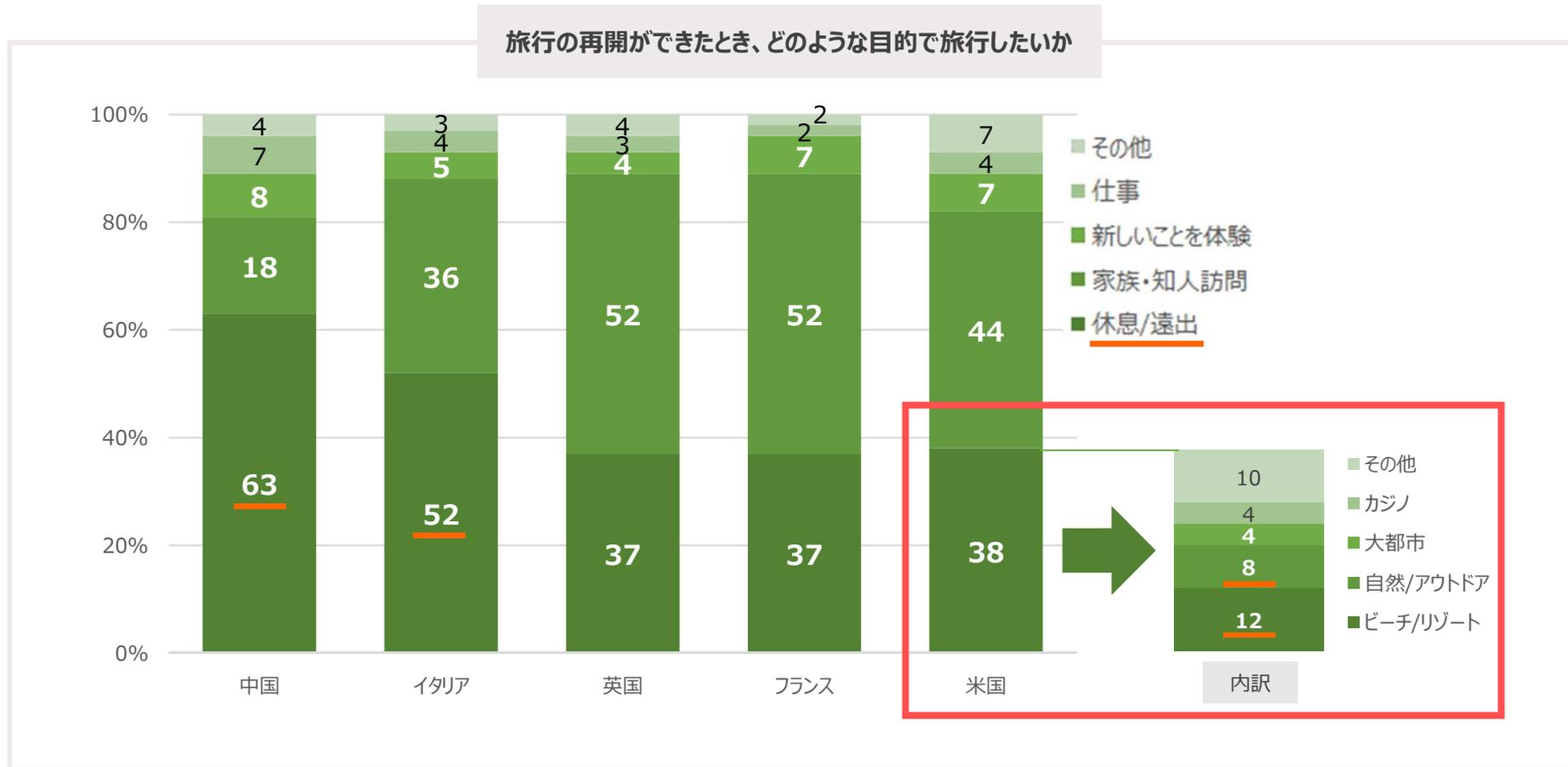
【韓国】新型コロナ終息後、実施したい国内旅行のタイプ  
(単一回答)



出典：韓国文化観光研究院 Post-COVID19による国内旅行調査  
한국문화관광연구원 Post-코로나19에 따른 국내여행 조사 보고서

- 韓国においても、コロナ収束後は旅行（特に国内）のニーズが高い。
- 旅行タイプとしては、山や海などの自然景観を求めている。

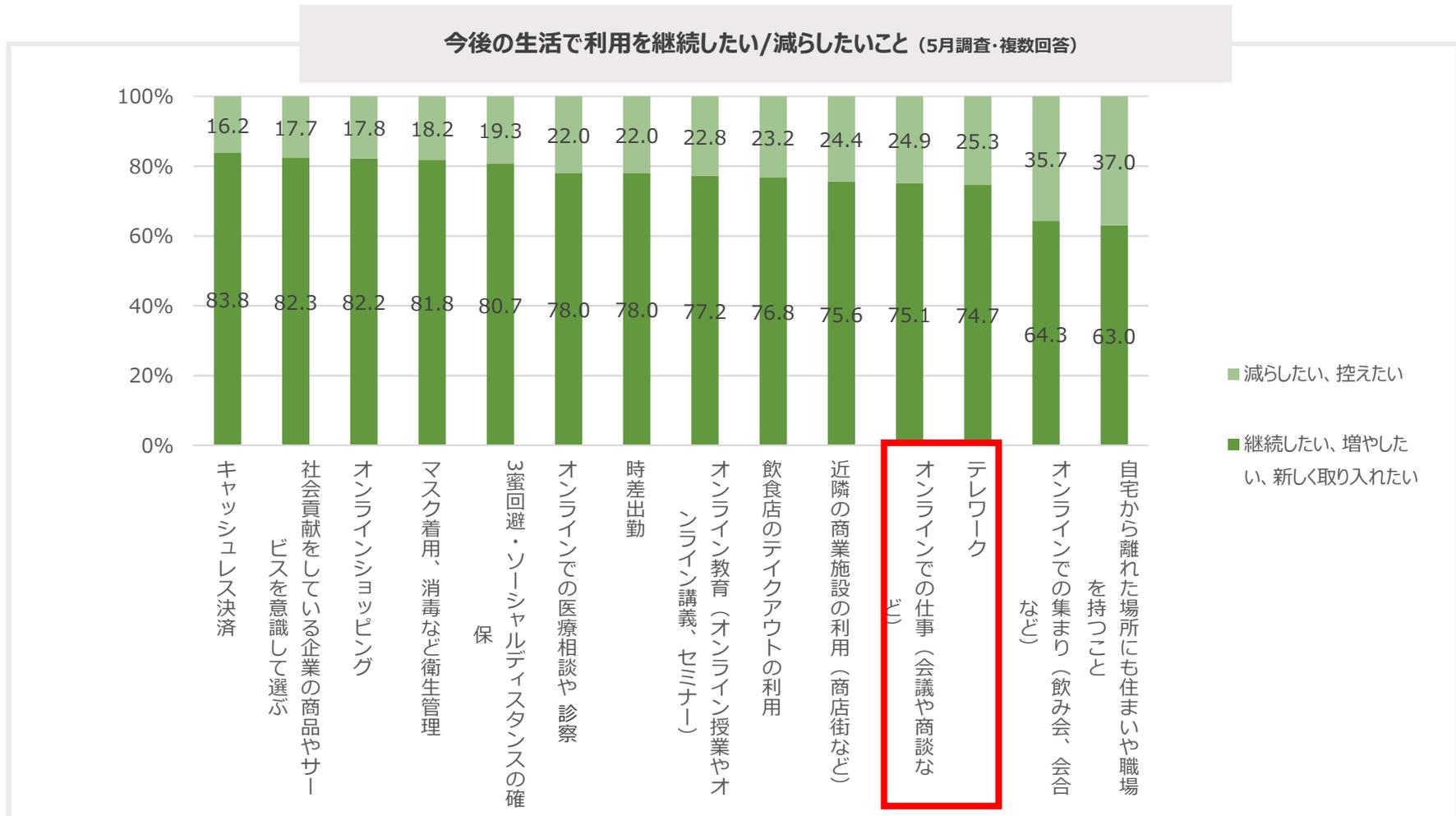
# 1. コロナ収束後の旅行（5）海外市場の動向② <米国・その他>



出典：ボストン コンサルティング グループ「COVID-19 Consumer Sentiment Snapshot #10: The Trip Back」を元にグラフ作成  
 URL ( <https://www.bcg.com/publications/2020/covid-consumer-sentiment-survey-snapshot-5-18-20> )

- 中国、イタリアでは、休息/遠出目的で旅行に行きたい人が最も多い。
- 米国では家族訪問に次いで2番目。ビーチや自然/アウトドアが大都市に比べ多い。

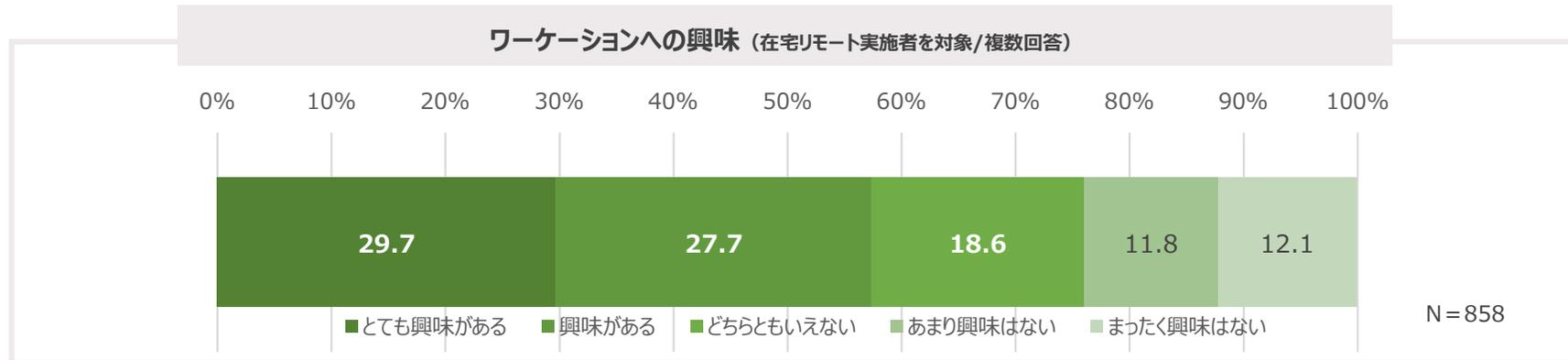
## 2.ワーケーション（1）働き方の変化



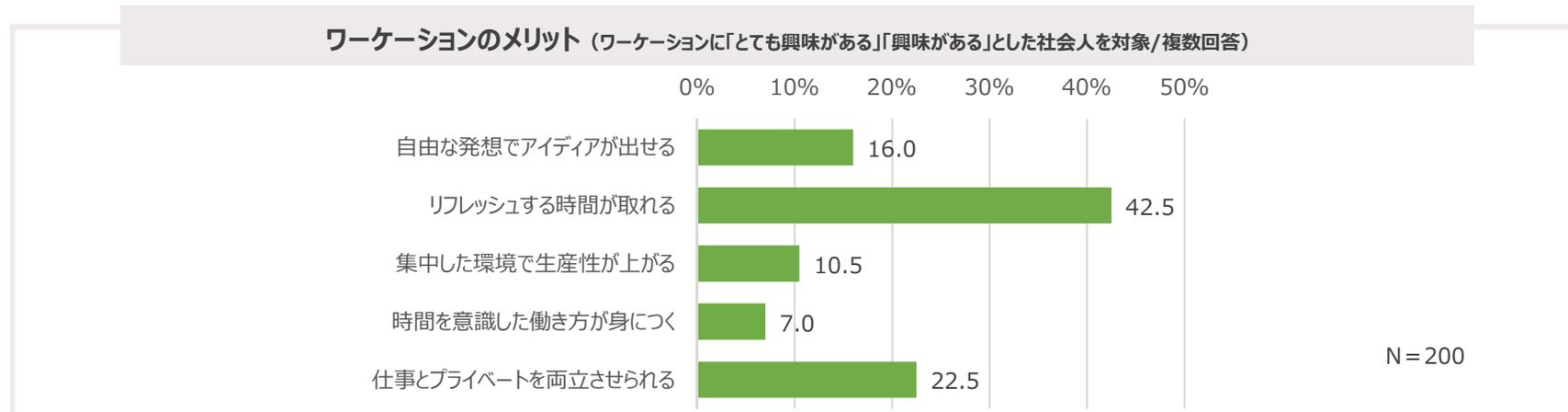
出典：JTB総合研究所 新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化及び旅行再開に向けての意識調査2020

- 自粛期間中にオンライン業務、テレワークが浸透。
- 約4分の3の人がオンライン業務、テレワークの活用の継続を望んでいる。

## 2.ワーケーション (2) ワーケーションへの意識



出典：カトープレジャーグループ 働く世代のワークバランスの意識変化に関する調査

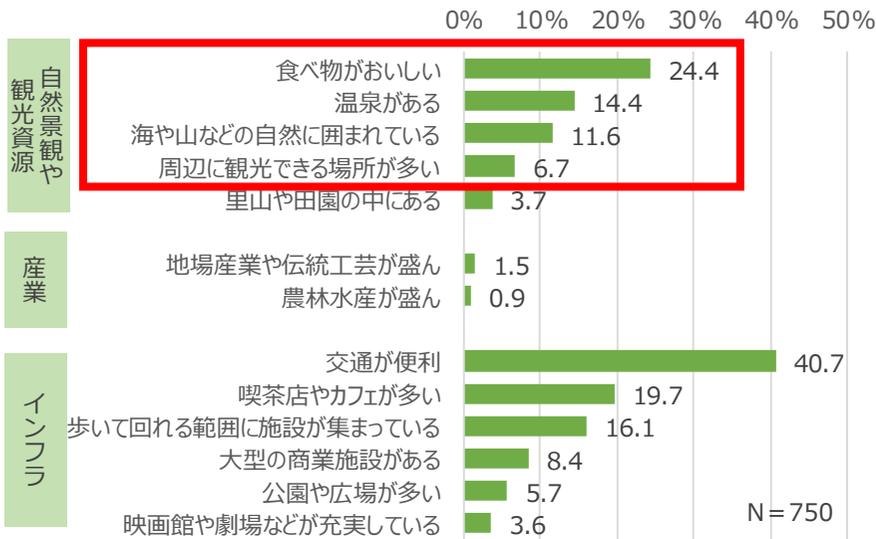


出典：カトープレジャーグループ 働く世代のワークバランスの意識変化に関する調査

- 過半数の人がワーケーションに興味。
- メリットとしては、「リフレッシュ」と「仕事とプライベートの両立」を挙げている。

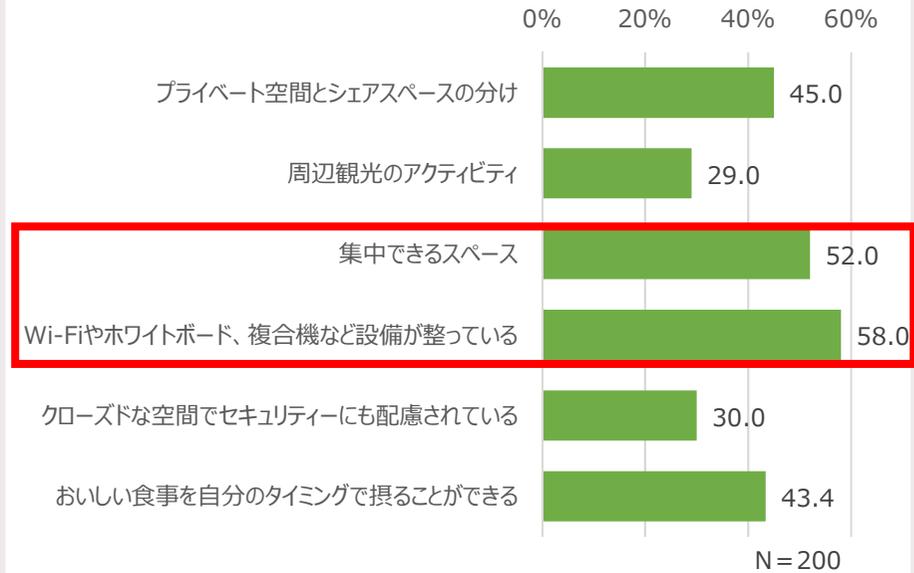
## 2.ワーケーション (3) ワーケーション実施の条件

テレワークしてみたいまち・条件として大切なこと (複数回答)



出典：JTB総合研究所 働き方の変化とテレワークに関する意識調査

ワーケーションで重視するホテル・リゾートのサービス  
(ワーケーションに「とても興味がある」「興味がある」とした社会人を対象/複数回答)



出典：カトープレジャーグループ 働く世代のワークバランスの意識変化に関する調査

- ワーケーション先の地域には、温泉や自然、観光要素等を求める。
- 一方で、施設・設備面では業務を行う上での利便性を求める声も多い。

資料 3

National  
Parks  
of Japan



国立公園における利用者回復に向けた  
取組及び国立公園満喫プロジェクトの  
8公園を中心とした取組状況

- 新型コロナウイルスの影響により、国内外の観光客が大幅に減少し、国立・国定公園におけるツアーや宿泊等の事業者に大きな影響が生じている。
- コロナ収束前の段階から、収束後を見据えたツアー準備等に取り組むことで、関係事業者の雇用を維持・確保するとともに、魅力的なツアー等による旅行者数の増加、地域経済の活性化を目指す。

## 事業1. 国立公園等において切れ目なく魅力的なツアー・イベントを準備・実施 (1,600百万円) <補助>

### 事業概要

◆自然体験アクティビティ等を行うエコツーリズム事業者やDMO（観光地域づくり法人）等に対し、以下について支援する。

- ①ツアー・イベントの企画・実施
  - ②特にコロナ収束前の段階から、海岸清掃・修景伐採・歩道修繕といったツアー準備
- ※アドベンチャーツーリズムやサステイナブルツーリズムに資するものやワーケーションと連携して実施するものを優先



星空撮影イベント



親子カヤック



ガストロミーウォーキング（500人程度参加）



## 事業2. 緊急プロモーションの実施 (800百万円) <直轄（請負）>

### 事業概要

- ◆まずは国内向けに、国立公園等での遊び方といった魅力を伝えるプロモーションを実施。その後、感染症の収束状況を踏まえ国外プロモーションを実施。
- ◆各種メディア等を活用したデジタルマーケティング（バナー広告等）による国立公園等の魅力を訴求するプロモーション等を実施。

Tsukuba Himekuni National Park



Shirane National Park



広告など

プロモーションイメージ



※国内向けの誘客・ワーケーション等新たな利用のためのプロモーションとそのためのサイト整備等を想定

- 新型コロナウイルスの流行以降、感染リスクの低いキャンプ場等の自然志向の高まりとテレワークの定着が進み、ワーケーションの機運が高まっている。
- ワーケーションを受け入れるための環境整備を行い、自然の中でクリエイティブに仕事を行うとともに、家族も安心して自然を満喫できる、国立公園等で「遊び、働く」という新たなライフスタイルを示す。
- ワーケーション推進に伴うロングステイとエコツアーの利用促進により、withコロナ時代の地域経済の下支えや平日の観光地の活性化を目指す。

## 事業概要

### ① キャンプ場でのワーケーションの実施



キャンプ場での  
ワーケーション



子供向け  
プログラム

### ② 旅館等でのワーケーションの実施



南紀白浜（白浜町）



鉄輪温泉  
（別府市）



鳴子温泉郷  
（大崎市）

◆ 国立・国定公園、国民保養温泉地のキャンプ場・旅館・ホテル等の事業者、DMO、地域協議会等に対し、以下について支援する。

- ① ワーケーションツアー等の企画、実施
- ③ プロモーションの実施

- ② 子供向けプログラムの企画・実施
- ④ ワーケーションのためのWi-Fi等の環境整備

## 誘客及びワーケーションに係る補助事業の申請・採択結果

合計501件を採択（うちワーケーション関連は271件）。約72億円、1,200件弱の申請。  
今後、34すべての国立公園で事業が実施される見込み。

## ① 基盤整備

### ○ 利用施設の整備

#### 慶良間諸島国立公園

- 座間味島の神の浜園地に、ケラマブルーの景色と夕日や星空を楽しめる、**神の浜テラス**が6月にオープン。



星空を楽しめるように半分、屋根をなくした造りに  
【神の浜テラス】

#### 支笏洞爺国立公園

- 支笏湖ビジターセンターでは、登山、カヌー、ダイビングなどのアクティビティや、空撮映像、「樽前山の火口」など立入規制エリアの**3D動画を視聴できるVR展示を設置**。公園利用者の滞在時間延長やフィールドに導く効果を期待
- R2年度は、5公園の8カ所において、デジタル技術を活用した展示を導入予定



VRの他、多人数向けに4Kシアターでも放映  
【支笏湖ビジターセンター】

### ○ 多言語解説の充実

#### 8国立公園 他

- R1年度は、8公園を中心に直轄及び自治体施設の案内解説板やビジター展示等の多言語化を推進。2次元コードを活用したアプリにより、英・中等複数言語に対応。
- R2年度は、**補助対象を自治体から民間にも拡充した**。また、8公園では整備箇所等を拡大。**さらに、他の10数公園でも整備を予定**。



2次元コードを活用した多言語化

## ② コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制強化

★：国際観光旅客税による事業

### ○夜のコンテンツの充実



- 国立公園等ならではの魅力ある**自然・文化・歴史を楽しめるナイトタイムコンテンツ**の造成について、**13公園及び国民保養温泉地**にて取り組みを検討。
- また、一定エリアの回遊性・消費額増を目的として実施する、文化庁・観光庁・環境省における3省庁連携事業では、4事業が国立公園関係として採択。



星空観察（イメージ）

### ○地場産品を活かしたサステナブルツーリズムの推進



- 日本の国立公園ならではの「食」「お土産」の**開発、高付加価値化**等を支援。
- R2年度は6公園（日光、秩父多摩甲斐、富士箱根伊豆、瀬戸内海、大山隠岐、慶良間諸島）において7事業を採択



文化を伝えることによる高付加価値化（イメージ）

### ○野生動物観光の促進



- 野生生物保護センターの改修をR2年度中に実施予定（3カ所）  
（釧路湿原野生生物保護センター・佐渡トキ保護センター・西表野生生物保護センター）
- インバウンドを対象とした**野生動物を観察するツアーの開発**やそれらツアーのプロモーション等の取組を補助事業により支援。海外の旅行博への出展、**ツアーコンテンツの開発を実施**。（R1年度：12事業、今年度：8事業）



釧路湿原野生生物保護センターのオオワシ(左)とオジョロワシ(右)

## ②コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制強化

★：国際観光旅客税による事業

### ○ビジターセンター等でのアクティビティ情報の提供

- 8 + 3 公園のビジターセンターにR1に設置した、アクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供するデジタルサイネージ等について、さらに8つの公園で整備予定
- 駅前案内所等/ビジターセンタースタッフ向けのコンシェルジュ研修/情報交換会を実施し、案内所等スタッフが地域のアクティビティを無料体験できる枠組みを構築中。コロナを受け、マイクロツーリズム推進も兼ねたスタッフ向けのアクティビティ体験事業を実施

システムを通じて予約できるアクティビティ



日光国立公園



研修/情報交換会の様子

### ○国立公園コンテンツの質の確保及び向上

- 国立公園への持続的な誘客の強化及び新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた旅行業関係者の信頼度や利用者の満足度を高めるため、国立公園で提供するコンテンツの質の確保・向上を目的としたガイドラインのとりまとめを実施

### ○国立公園コンテンツの充実・誘客力の強化

- 国立公園コンテンツ集2020については、23公園に拡充し、合計約300コンテンツを掲載予定（2019は17公園、計185コンテンツを掲載）。また、各コンテンツを活かしたモデルコース60コース程度や複数公園を横断するモデルコース3コース程度も作成し掲載予定
- また、コンテンツの中からOTA（Voyajin, Viator, Expedia）へ合計約100コンテンツの掲載支援を実施予定。



### ③ 引き算の景観改善

★：国際観光旅客税による事業

#### ○利用拠点における景観の上質化（詳細別紙）

- 国立公園の利用拠点において、**廃屋撤去やまちなみ改善等を公共と民間が一体となって面的に取り組む滞在環境等上質化事業**をR1年度から開始。R2年度は、阿寒摩周、三陸復興、大山隠岐、雲仙天草等の**11公園**で実施。

##### 1) 川湯温泉再生に向けた取組 **阿寒摩周国立公園**

弟子屈町と連携しつつ、環境省において廃屋（旧華の湯ホテル）撤去をR1年度から実施中。R2年度は、2件目の廃屋（旧川湯プリンスホテル）の撤去に着手。温泉配管により損なわれている景観改善等も支援。

解体跡地は、地元行政等が中心となり、複数の民間事業者と連携し、地場産品を提供しながら温泉を楽しむ交流広場としての活用を検討中。

##### 2) 十和田湖畔の景観改善と廃屋撤去 **十和田八幡平国立公園**

十和田市が市道石畳化を計画するとともに、地域事業者が上質化補助金を活用して建物外観の改善を進めるなど、関係者が一体となって街並みの上質化に取り組んでいる。

環境省においては、旧十和田観光ホテル撤去をR1年度から実施、引き続き土産物店3棟の撤去を計画。



撤去予定の土産物店



老朽化した外壁を修繕

##### 3) 三陸海岸における景観改善 **三陸復興国立公園**

みちのく潮風トレイル全線開通との相乗効果を見据え、三陸海岸沿岸部において、R1年度より、地方公共団体が行う廃屋の撤去と跡地への新たな民間サービス導入を支援中。R2年度も支援を継続。

### ③ 引き算の景観改善

★：国際観光旅客税による事業

#### ○利用拠点における景観の上質化

##### 4) 出雲市における景観改善に向けた取組

大山隠岐国立公園

日御碕地区において、R1年度に、地域の多くの中小事業者（店舗、宿泊施設等）が参画した利用拠点計画の作成を支援。R2年度は、地区での一体的な景観の改善・創出に向けた支援を実施。



今後改善を予定している不統一な景観のまちなみ

##### 5) 雲仙温泉地区の上質化

雲仙天草国立公園

H30年の周辺地域の観光資源の世界文化遺産登録や今後の長崎新幹線の開業等も契機にとらえ、R2年度は、自治体による温泉配管整理、民間事業者等による老朽化した旅館の解体等を支援。解体跡地については、民間の宿泊施設が活用予定。



景観を損ねている温泉配管（現在の様子）【雲仙温泉】

#### ○地域の取組による無電柱化

富士箱根伊豆国立公園

- 富士箱根伊豆の富士山エリア白糸の滝園地周辺において、静岡県が無電柱化推進計画に基づき、**電柱地中化を実施**。併せて富士宮市が園地を再整備し、**店舗の移転・外観統一、バリアフリー化等**を実施した（H30～R1年度）。

無電柱化により、園地からの富士山の眺望が大幅に改善



【富士箱根伊豆国立公園 白糸の滝園地】

## ④ 利用者負担による保全の仕組みづくり

★：国際観光旅客税による事業

### ○入域料等の推進・事業者等による環境保全・維持管理への負担

- ・ 妙高山、火打山では、これまでの社会実験の結果等を踏まえて、**地域自然資産法に基づく入域料（500円）** 収受をR2年7月1日から開始
- ・ 西表島では、利用者負担の仕組み導入に向け、有識者・行政機関・関係団体等をメンバーとした勉強会および意見交換会を開催。利用者アンケート等の結果も踏まえ、**R1年度に西表島来訪者費用負担推進計画（案）**を策定

妙高戸隠連山国立公園



西表石垣国立公園

## ⑤ 多様な宿泊サービスの提供

### 上質な宿泊施設の開業

- ・ R2年7月15日に栃木県日光市に上質な宿泊ホテルが開業

日光国立公園



ザ・リッツカールトン 日光

### 民間企業と連携した国立公園グランピングの実施

- ・ **グランピング等の事業立ち上げやトライアル実施等を支援** ★

R2年度11件：尾瀬、日光、上信越高原、富士箱根伊豆、伊勢志摩、瀬戸内、大山隠岐、阿蘇くじゅう、屋久島、西表石垣国立公園



## ⑥ 公共施設の民間開放

### ○公共施設の整備運営に民間ノウハウの活用

- 環境省として初めて設計・工事・運営等を一体的に行うDBO方式により公募し、株式会社モンベルを代表法人とする共同事業体を選定。令和3年度から同社が運営者となり、施設の供用を目指す。
- 日光国立公園のキャンプ場再整備でも、DBO方式により公募を予定。

#### 大山隠岐国立公園

下山野営場(整備イメージ)



サービス提供イメージ

(写真:株式会社モンベル)

### ○カフェの設置等による快適性向上

- 座間味港ターミナルの隣接地に座間味ビジターセンターの整備に着手し、施設の管理運営事業者の公募を7月に開始。令和3年度より、カフェ・物販部分を含めた民間による一体的な管理運営を行い、快適性や利便性の向上を目指す。

#### 慶良間諸島国立公園



座間味ビジターセンター (イメージ)

## ⑦ 民間事業者等との連携

### ○「国立公園オフィシャルパートナー」との連携

- 国立公園とパートナーシップ企業等との連携による国立公園にかかるコンテンツ造成・プロモーション等の取組を推進するため、マッチング支援やネットワーキングを実施。
- 各パートナーシップ企業の情報発信媒体あるいは商品ツールを活用して、国立公園をPRあるいはツアー商品として発信。



オンラインでのOPとの情報交換会



OPIによる各種情報発信等取組

## ⑧ プロモーション

★：国際観光旅客税による事業

今年度、国内向け誘客の強化と新型コロナウイルスの状況を見ながら海外への段階的プロモーションを予定  
2021年以降のプロモーション戦略の策定のための調査実施及び戦略策定を行う

### ○新宿御苑での国立公園情報の発信 ★

- 新宿御苑インフォメーションセンターに国立公園の情報を総合的に発信する「National Parks Discovery Center」をオープン（R2.7）。4Kシアター、デジタルサイネージ、国立公園案内カウンター等を設置。



National Parks Discovery Center内部

### ○国内外旅行博等での情報発信等

- 国立科学博物館において日本博事業により「国立公園展」を実施（8/25～11/29）
- ツーリズムEXPO（10/29～11/1@沖縄）にて国内外の旅行会社やメディア等とのビジネスマッチングを実施予定



国立公園展

### ○JNTO国立公園サイトの充実等による情報発信 ★

- JNTO国立公園サイトについて、ユーザビリティの向上やコンテンツのさらなる充実のほか、繁体字サイトの作成を予定
- 新型コロナウイルスの状況を見ながら、国立公園公式SNS等を活用した国立公園の魅力発信による認知度向上やプロモーション素材となる動画撮影等を行い、適時に広告配信等を実施予定



JNTO国立公園サイト

## ⑨ 関係省庁や地域との連携

### ○ (株) 地域経済活性化支援機構との連携

- (株)地域経済活性化支援機構の「観光遺産産業化ファンド」により、民・官・公・金の連携で国立公園を地域の観光資源として磨き上げる取組について、北海道東エリア（阿寒摩周）と栃木エリア（日光）で具体検討を開始。栃木エリア（日光）では東武鉄道が戦略パートナーに参画。



### ○ DMO等との連携強化

- 国立公園利用企画官が配置された国立公園を中心に、DMO、国立公園管理事務所、運輸局、観光庁との連携推進に向け情報共有体制を構築
- DMO日光の事業支援等を行う機関として、現地事務所が参画**

## ⑩ 全国展開

### ○先進的インバウンドプロジェクト支援事業

- 自然体験コンテンツの上質化や地域独自性の磨き上げ、複数国立公園あるいは国立公園内の周遊の促進を図る取組など、**滞在期間の延伸、消費額の増加等につながる取組を支援する事業**をR1～R2にかけて実施中（支援先は7団体）。



【阿寒摩周】

火山やサステナブルツーリズムの観点での海外先進地のリサーチに基づくコンテンツの磨き上げ

【霧島錦江湾・屋久島・奄美群島】

海外専門家の招へいによる現地調査、WS等による課題の抽出、ストーリー構築

### ○新規の連携体制構築等

- **磐梯朝日国立公園（磐梯吾妻猪苗代地域）**において、県内外からの誘客等に向けた**地域の協議会や計画づくり**を今年度進める予定

### ○自然公園制度の見直し

（参考資料1参照）

- 昨年度、自然公園制度のあり方検討会（座長：下村彰男東京大学大学院教授）を設置し、国立公園での利用や公園事業・集団施設地区のあり方等について検討を行い、**2020年5月**に「**今後の自然公園制度のあり方に関する提言**」を取りまとめた。

申請：25件（全件採択）、交付要望額合計：382百万円

公園名	立地自治体	事業概要	申請者
<b>&lt;利用拠点計画策定&gt;</b> ※作成済み計画の変更を含む			
岩手県普代村、福島県北塩原村、高知県土佐清水市			
<b>&lt;廃屋の撤去&gt;</b>			
知床国立公園	北海道羅臼町	ホテル廃屋撤去	株式会社玉川組
三陸復興国立公園	宮城県気仙沼市	国民宿舎廃屋撤去	気仙沼市
足摺宇和海国立公園	高知県土佐清水市	レストラン・売店施設撤去	(株) 高知県観光開発公社
雲仙天草国立公園	長崎県雲仙市	宿泊施設の離れ棟等の撤去	(株) 雲仙富貴屋
霧島錦江湾国立公園	宮崎県高原町	休憩所の廃屋撤去	(株) HIKARIホールディングス
<b>&lt;インバウンド機能の向上&gt;</b>			
阿寒摩周国立公園	北海道釧路市	阿寒湖畔スキー場多言語標識等整備	釧路市
上信越高原国立公園	長野県山ノ内町	公衆トイレ洋式化	山ノ内町
雲仙天草国立公園	長崎県雲仙市	公衆トイレ洋式化	長崎県

# 令和2年度国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業への申請と採択事業（2/2）

公園名	立地自治体	事業概要	申請者
<b>&lt;まちなみの改善&gt;</b>			
阿寒摩周国立公園	北海道弟子屈町	川湯温泉の河川周辺の修景	弟子屈町
十和田八幡平国立公園	青森県十和田市	店舗の外観修景等	(有)たかせ*1
大山隠岐国立公園	鳥取県大山町	旅館の外観修景	弥山荘
大山隠岐国立公園	島根県出雲市	日御碕地区の上質化（店舗の外観修景等）	(有)幸洋丸*2、柿谷商店、浜崎屋商店、圓山商店、花房商店（5件）
雲仙天草国立公園	長崎県雲仙市	雲仙温泉地区の上質化（雲仙地獄周辺、宿泊施設等の外観修景等）	雲仙市、(株)新湯ホテル、イシドウ観光開発(有)（3件）
霧島錦江湾国立公園	鹿児島県霧島市	ホテルの外観修景等	(株)霧島ホテルマネジメント*1
<b>&lt;既存施設のリノベーション&gt;</b>			
釧路湿原国立公園	北海道標茶町	茅沼地区宿泊施設のリノベーション（設計）	標茶町
大山隠岐国立公園	島根県大山町	宿泊施設のリノベーション	(株)さんどう

\* 1 「インバウンド対応機能強化」にも併せて申請

\* 2 「既存施設のリノベーション」にも併せて申請

# 2019年国立公園の訪日外国人利用者数の推計結果

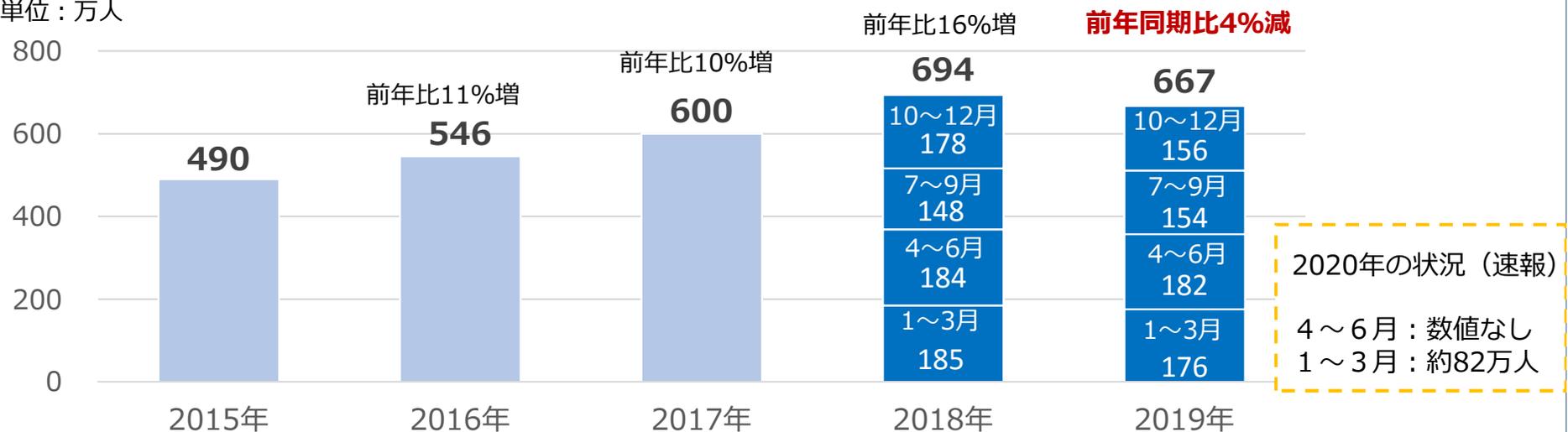
資料 4

- **2019年の国立公園の訪日外国人利用者数は約667万人と推計。前年と比較して27.1万人減（3.9%減）。**
- 国立公園外国人利用者数の約2割＊を占める**韓国が、前年比43.4万人（31.7%）減**となった。全国で25.9%減に対し、観光需要の高い地方エリアへの影響が大きく生じた。特に、航空路線の運休・減便等の影響が顕著となった8月以降を含む下半期の減少が著しい。利用者数の約3割＊を占める中国、約1.7割＊を占める台湾の増加率は前年と比較して伸びなかった。
- 公園別で減少数が多いのは、阿蘇くじゅう国立公園で、最大シェアで約7割＊を占める韓国客が減少し、前年比28.2万人（27.3%）減。次いで、支笏洞爺国立公園で、最大シェアで約3割＊を占める台湾客及び約2割＊を占める韓国客が減少し、前年比10.8万人（10.1%）減。
- 増加数が多いのは、富士箱根伊豆国立公園で前年比10.2万人（3.4%）増。次いで、伊勢志摩国立公園で前年比2.2万人（44.6%）増。

＊2018年におけるシェア

- 【参考】
- 2019年の訪日外客数は3,188万人（前年比2.2%増）
  - 国立公園外国人利用者数で最大の中国について、全国で14.5%増に対し、公園利用者数は前年比6.1万人（3.0%）増にとどまった。
  - 欧米豪の公園利用者の伸び率は好調（イギリス（前年比23.5%増）、ドイツ（同17.4%増）、フランス（同25.3%増）、カナダ（同12.6%増）、オーストラリア（同10.1%増）等）。ラグビーワールドカップ日本大会の開催が要因のひとつとして挙げられ、加えて、開催前の4～6月においても、イギリス、ドイツ、フランス、カナダ、オーストラリアの公園利用者数は前年比を3割以上上回り、欧米豪の公園利用者は着実に増加しているものと考えられる。

単位：万人



※四捨五入による端数処理により、合計値が一致しない場合がある。

- 2016年～2020年までのプロジェクト実施により、特に8国立公園で、プロモーション、施設改修、Wi-Fi整備、多言語化等進展したが、「世界水準」のブランド力・認知度や、民間と連携した利用の質の向上は不十分。
- コロナウイルスの影響により国内外の利用者数が大幅に減少し、公園事業者の事業継続と雇用維持が課題。アウトドアレジャーやテレワークの関心高まりによる新たなライフ＆ワークスタイルの転換が見込まれる。
- 訪日外国人の今後の回復は不透明だが、現時点で2030年の政府全体目標は維持（訪日外国人6000万人）



国立公園満喫プロジェクトを以下の観点から**2021年以降も継続的に実施し、新たな展開を図る。**

## 基本的な方針

1 ウィズコロナ・ポストコロナの時代への対応  
～ワーケーション等～

- 国内誘客の強化、地域内観光の受け皿として再構築
- ワーケーションなど国立公園の新しい利用価値を提供
- コロナ禍での安心・安全で快適に利用できる受入環境整備
- 多様な利用者層をターゲットにしたコンテンツ充実・情報発信
- 限定体験やキャパシティコントロールの推進による保護と利用の好循環

2 水平・垂直展開  
～8公園から全公園へ～

- 全34公園の底上げ・水平展開（法改正も含む制度化検討、総合展開型・個別事業型）
- さらなる高みを目指した集中的な取組による「世界水準のデスティネーション」の実現（保護と利用の好循環、上質なサービス、体験コンテンツ、周辺地域との広域周遊、サステナブルツーリズム等）
- 先行8公園等は取組継続・成果を生かした誘客
- 国立公園・ロングトレイルの資源の活用・連携

3 これまでの基本的な視点の継続・重視

最大の魅力は自然そのもの／人の暮らし・文化・歴史を有する自然との共生の姿／「体積」で考える／幅広い利用者層に対応／広域的な視点／サステナビリティ

## 目標・指標

当面の目標  
（～2025）

- ・自然を満喫できる上質なツーリズムの実現とブランド化。そのための「質」の目標・指標の設定（延べ宿泊者数、認知度等）
- ・新型コロナウイルスによる影響前の国内利用者の復活
- ・訪日外国人利用者数**1000万人**目標を見据えた、同ウイルスによる影響前の訪日外国人利用者の復活
- ・取組を行う公園・地域ごとに個別の目標・指標を設定 ※政府全体目標次第で必要な見直しを検討

長期目標（～2030）政府全体目標を踏まえつつ、上記の「当面の目標」の達成状況をフォローアップする中で検討

# (概要) 国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組方針案

## 具体的なアクション

### (1) 国立公園満喫プロジェクトの制度化

- 満喫プロジェクトによる適正な利用促進の取組を自然公園制度に反映（自然体験プログラムの促進、利用拠点滞在環境の上質化等）

### (2) 国立公園の新しい利用など幅広いターゲットを想定した情報発信とコンテンツ造成

- 国内誘客に重点をおき、「国立公園」の認知度を向上させるためのプロモーション。
- ワーケーション等の新しい利用、アドベンチャーツーリズム、サステナブルツーリズム等の様々なターゲット。
- 日本の国立公園の特徴・ストーリーを活かした地域内外のブランディングやコンテンツ造成。 現地で活躍する人材育成。

### (3) 質の高さや快適性・環境保全に配慮された体験利用の推進と保護と利用の好循環

- 限定体験やキャパシティコントロールの推進、利用者負担の仕組みづくり。 利用形態に応じたゾーニング（エリア分け）

### (4) 利用者受入れのための基盤整備

- 基盤とする利用環境の整備（多言語化、トイレ洋式化等）を先行8公園以外の国立公園に展開
- ビジターセンターの利用案内機能の強化と他施設との連携促進
- 感染対策や自然災害に対応した安全で快適な利用施設の提供（ビジターセンター等環境整備、山小屋の施設改修等の支援検討）
- 利用施設やサービス等における脱炭素・脱プラなど環境配慮型の受入環境づくり

### (5) 滞在したくなる利用拠点を目指した景観の磨き上げ

- 面的な利用拠点上質化、廃屋撤去。 廃屋化防止のための公園事業の経営状態の把握や改善指導

### (6) 官民連携の強化・広域的取組への発展

- 地域の金融機関や交通機関等との連携体制構築。 民間企業やDMOとの連携強化と取組の更なる発展
- 複数公園・周辺観光地との広域的な周遊利用、文化・地場産品等を含めた地域一帯のプログラム造成、ロングトレイルの活用

## 今後のスケジュール（予定）

2020年度	<p><b>8月</b>：2021年以降の取組方針のとりまとめ</p> <p>↓</p> <p>8 + 3公園ごとの取組の点検・評価、2025年までの次期計画の検討・策定（継続意思を有する地域）</p> <p>↓</p> <p>プロジェクト全体の取組状況と成果のとりまとめ</p>
2021年度	<p><b>今年度末～来年度当初</b>：2016～2020のプロジェクト全体総括、2021以降の取組内容紹介</p>

## 国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組方針（案）

### 国立公園満喫プロジェクトの新たな展開

国立公園満喫プロジェクトを以下のような観点から2021年以降も継続的に実施し、新たな展開を図っていく。

- 日本の国立公園は、幅広い気候帯と多様な生態系や自然景観に恵まれ、我が国の生物多様性の屋台骨であるとともに、人々の暮らしや文化、歴史が根付いていることが特徴。その魅力を再発見・再構築することにより、国内外の利用者が国立公園を満喫できるようにする。これにより、地域の様々な主体が協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境の保全に再投資される。このような「自然環境の保護と利用の好循環」を実現する。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、国内外の利用者が大幅に減少し、国立公園の利用を担うツアーや宿泊等の事業者に大きな打撃を与えている。まずは国立公園の関係事業者の事業継続と雇用維持を支援し、これまでインバウンド中心だった国立公園満喫プロジェクトについて、国内利用を重視した展開をはかる。
- ウィズコロナの時代が続く中、国内では感染リスクの低いアウトドアレジャー人気が高まっており、さらにはテレワークの定着によるワーケーション、地方移住等への関心の高まりを受け、新たなライフ&ワークスタイルの転換が進むと見込まれる。この背景の下、国内利用の復活を目指し、国立公園における新たな遊び方・休み方・働き方を発信・促進して、心身の健康と生産性の向上、関係人口の拡大につなげる。
- 我が国にとってインバウンドが観光立国の要であることは変わらない。コロナ収束後のインバウンドの復活を見据え、受入れ環境の整備等は着実に進めておく必要がある。

### 基本的な方針

#### (1) ウィズコロナ・ポストコロナの時代への対応

- 国立公園の利用を担うツアーや宿泊等の事業者なくして今後の誘客は推進できないことを認識し、雇用の維持や人材育成を優先課題として進める。
- 当分はインバウンドの回復が見込めない中、国内利用は旅行消費額の約8割を占めることを再認識し、プロモーション等により国内誘客を強化。地域の資源が地域の利用客に再発見されることを目指し、地域内観光の受け皿としても再構築。
- ライフ&ワークスタイルの転換による従来型の観光旅行以外の利用（ワーケーション、リモートオフィスや多拠点居住）を視野に、国立公園の新しい利用価値を提供。
- 感染リスクの低い観光地としての魅力を発信し、さらに安全・安心で快適に利用できる受入環境を整備。
- 自然やアウトドアへの関心や、海外旅行から国内・地域内旅行へニーズが高まるこの機会にファン層を獲得し、ポストコロナのリピーターや口コミによる増加を目指す。
- 特定の利用者層に偏らない多様な利用者層をターゲットにする。
- 限定体験やキャパシティコントロールの推進により、保護と利用の好循環、体験の質や満足度の向上を実現。

## (2) 水平・垂直展開

- 8公園等での実績を踏まえ、34公園の全体的な底上げ、横展開を図ることで、全体的な利用者の増加、混雑緩和・分散化、滞在期間の長期化、リピーター獲得につなげる。
- 8公園等での実績を伸ばし、さらに高みを目指す公園での集中的な取組を実施し、外国人から訪問先として選好される「世界水準のデスティネーションとなる日本の国立公園」のモデルをつくる。
- 国立公園やロングトレイルにも横展開を図り、広域的な自然観光の推進を図る。
- これらの実現に向け継続的かつ長期的に取り組む。

## (3) これまでの基本的な視点は引き続き重視・発展

- ① 最大の魅力は自然そのもの。自然環境の保全を進め、自然そのものの魅力を生かすことにより利用の推進を図る。
- ② 国立公園には人の暮らしがあり、多様な自然を背景とする地域独自の文化、歴史が魅力。様々な地域の産業が経済的に持続可能となるモデルを作り上げる。
- ③ 利用者数だけでなく、消費単価や体験の質の高さ・深さを掛け合わせた「体積」を大きくする。各国立公園のストーリーを活かした自然体験アクティビティの充実や、限定体験やキャパシティのコントロールを進めて体験の質を高める等により、滞在時間、消費単価や満足度を向上。
- ④ ファミリー層、若年層、障害者、ハイエンド層など幅広い利用層のニーズに応じた価格や内容の宿泊施設・サービスを提供。
- ⑤ 広域的な視点で考え、DMOを含む官民連携により、複数公園や周辺観光地、温泉、文化・歴史、里地里山等の資源を活かした広域的・地域一帯的な周遊圏として、長期滞在につなげる。
- ⑥ 利用者目線で現場の施設設計や運営方法を改善する。
- ⑦ サステナビリティの視点を取り入れ、環境や地域の経済社会に配慮したサービスの提供や施設の運営により国立公園らしいサステナブルツーリズムを実現（省エネ・脱炭素、脱プラスチック、地産地消等）

## 目標・指標

### (1) 当面の目標（～2025）

- 自然を満喫できる質の高いツーリズムの実現とブランド化を目指す。そのため、「質」の目標・指標（例：延べ宿泊者数、一人当たり消費額、リピーター率、認知度、満足度等）も定め、「体積で考える」。
- 新型コロナウイルスによる影響前の国内利用者の復活を目指す。
- 海外における新型コロナウイルスの感染状況に留意しつつ、国立公園の訪日外国人利用者数1000万人目標を見据え、同ウイルスによる影響前の訪日外国人利用者の復活を目指す。
- 取組を行う公園・地域ごとに個別の目標・指標を設定する。  
（国立公園ごとにアクセス条件、利用施設、自然等のキャパシティ、利用のビジョン等が異なることから、それに応じた「量」and/or「質」に係る目標・指標を設定。）
- 今後決められる政府全体目標を踏まえつつ、目標の見直しの必要性を検討する。

※2019年の国内利用者数（延べ宿泊者数）・・・今年度中に集計予定

※2019年の訪日外国人利用者数（推計値）・・・667万人

## (2) 長期目標（～2030）

- 2030 年に向けた目標については、政府全体目標を踏まえつつ、上記の「当面の目標」の達成状況をフォローアップする中で検討する。

（「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成 28 年 3 月）では、2030 年に訪日外国人旅行者を 6000 万 人とする目標等※の達成により、観光立国の実現を図るとしている。）（※外国人旅行消費額、地方部での外国人延べ宿泊者数、外国人リピーター数、日本人国内旅行消費額）

### 推進の枠組み

国立公園全体で国内外の利用者復活と更なる誘客に向けて取り組むとともに、これまでのプロジェクト成果を活かして以下の枠組みで水平・垂直展開を進める。

#### (1) これまでの先行 8 公園等

- これまでの「先行的、集中的な取組を実施する 8 公園」「+ 3 公園」では、これまでに整備した受入環境を十分に活かし、国内外の誘客の中心地域としての役割を担う。
- 公園ごとに、取組成果やステップアッププログラムの進捗を点検・評価し、その結果を踏まえ、地域による継続意思を有する場合、観光客の復活に向けて今年度末を目途に 2025 年までの次期計画を策定する。新たな目標設定、地域協議会の体制継続等については、地域ごとの取組内容や意向に応じて検討。

#### (2) 他の地域への水平展開

- 8 公園以外の国立公園
  - ・総合展開型：地域協議会等の設置、ステップアッププログラムの策定により同時一体的に複数の取組を実施。
  - ・個別事業型：基盤整備（ビジターセンターの案内機能強化、多言語対応等）、利用拠点滞在環境の上質化、魅力あるコンテンツづくり支援、国内外へのプロモーション発信等の各分野で地域の特性を踏まえ個別に事業を展開。
- 国定公園

自然景観等のポテンシャルの高さ、地域における受入体制の充実状況、周辺の国立公園との周遊利用等を考慮し、一部の国定公園において基盤整備（多言語対応）や国内外への情報発信等を支援することを検討。
- ロングトレイル

三陸復興国立公園の「みちのく潮風トレイル」をはじめ、公園間をつなぐ自然体験の場としてロングトレイル（長距離自然歩道等）の基盤整備（多言語対応）や国内外への情報発信等を支援することを検討。

#### (3) 集中・総合的な取組を行うモデル地域（垂直展開）

- 「先行的、集中的な取組を実施する 8 公園」「+ 3 公園」のうち、これまでの実績を伸ばし、さらに高みを目指す公園及び周辺地域で集中的な取組を実施し、外国人から訪問先として選好される「世界水準のデスティネーションとなる日本の国立公園」のモデルをつくる。
- 具体的には、保護と利用の好循環、世界中から注目されるキラーコンテンツの造成、ハイエンド層にも対応した高品質なサービスの提供、サステナブルツーリズム、複数公園や周辺観光地を含めた広域的な周遊圏の形成等を進め、強力なプロモーション活動を集中的に実施。

## 具体的なアクション

### (1) 国立公園満喫プロジェクトの制度化

- 自然公園制度の見直しを行い、国立公園満喫プロジェクトにより推進してきた適正な利用促進の取組を自然公園全体に制度として取り入れていくことを目指す。
- 具体的には、地域との協議の場を設けつつ、自然体験プログラムの促進、利用拠点滞在環境の上質化を計画的に行う仕組みについて、自然公園法に位置づけることを検討。

### (2) 国立公園の新しい利用等幅広いターゲットを想定した情報発信とコンテンツ造成

- まずは国内誘客に重点を置き、「国立公園」の認知度向上に向けて、ワーケーション、リモートオフィス、多拠点居住等の新しい利用、アドベンチャーツーリズム、サステナブルツーリズム等様々なターゲットを設定する。
- 日本の国立公園、各国立公園のらしさ（ブランド）を地域内外に継続して認識させ（ブランディング）、そのためのストーリーを明確化し、DMO等との連携によるコンテンツ造成と国内外へのターゲットのプロモーションを行う。マイクロツーリズムを通じた地域の魅力の再発見や、人材育成もあわせて行う。（国立公園関係事業者の事業継続と雇用維持にも貢献。）

### (3) 質の高さや快適性・環境保全に配慮された体験利用の推進と保護と利用の好循環

- 限定体験やキャパシティコントロールの推進、利用負担の仕組みづくりによる、保護と利用の好循環を進め、体験の質や満足度を向上する。また、大衆観光を目指すフロントヤードと限定体験を目指すバックヤードに分けて受入体制を整備。

### (4) 利用者受入れのための基盤整備

- Wi-Fi 通信設備、トイレ洋式化、設備の多言語化、ユニバーサルデザイン、看板デザインの統一など基盤となる利用環境の整備について、先行8公園以外の国立公園に横展開する。
- ビジターセンターについて、利用者目線にたち、利用案内機能と博物展示機能を一体化し、情報提供を強化するとともに、同機能を持つ施設との連携を促進する。また、カフェやツアーデスクなどを含め、公共施設での民間サービスの導入を進める。
- 新型コロナウイルスの感染防止対策や近年激甚化している自然災害に対応し、安全で快適な利用施設を提供できるよう、ビジターセンター等の環境整備や山小屋の設備改修等の支援制度を検討する。
- 利用施設やサービス等における省エネ・脱炭素、脱プラスチック、地産地消等の取組を推進し、環境配慮型の受入れ環境づくりを進める。併せて、その取組を来訪者へ発信する。

### (5) 滞在したくなる利用拠点を目指した景観の磨き上げ

- 施設単体の景観改善から、集団施設地区等のエリア全体での面的な利用拠点上質化へシフトする。廃屋撤去を引き続き推進。
- 廃屋化を未然に防止するため、旅館等の公園事業の経営状態の把握や改善指導を行う。

### (6) 官民連携の強化・広域的取組への発展

- 地域の金融機関や交通機関等との連携体制構築による成果の実現。国立公園オフィシャルパートナー企業による多様なプロモーションなど民間企業との連携強化と取組の更なる発展。
- DMO（地域づくり観光法人）との国立公園等の利活用における連携の一層の強化や役割分担。
- 複数公園・周辺観光地との広域的な周遊利用、文化財や地場産品など地域の主要観光資源も含めた包括的なプログラムの造成。ロングトレイルも活用。

## 基本的な方向性

少子高齢化・人口減少社会や旅行ニーズの変化等の中、**自然公園制度は大きな転換期**。**国立公園満喫プロジェクト3年間の成果**を踏まえ、国立公園の最大の魅力である**自然そのものを保護しつつ、地域資源としての価値を活用・向上させる「好循環」を生み出す政策に転換**していくことが重要。

→地域の特質に応じた**「活用の方針」**を打ち立て、**利用を適切にマネジメントおよびコントロール**しつつ、世界水準の**「質」の高い自然を満喫できるツーリズム**を促進する。これにより、**地域社会の発展とインバウンド推進にも寄与**。

また、**自然公園の管理体制の充実強化、気候変動への適応、地域循環共生圏の創出**を提言。

## 国立・国定公園の利用環境の充実

- (1) 国立・国定公園のテーマやストーリーを踏まえた望ましい利用のあり方の検討のため、地域とともに**「利用のゾーニング（区域分け）」**の検討が必要。
- (2) 従来の利用施設整備に加え、**公園計画に基づき、自然体験プログラムの促進等のための事業計画**を新設。受入体制整備や自然体験プログラムの提供・開発促進等を国・自治体及び民間団体が実施。
- (3) 地域の**「自主ルールでは対応しきれない行為の規制（動物への餌付けやドローンの飛行等）」**より良い**「利用環境の維持のための利用調整地区」**
- (4) **「利用者負担の仕組みづくり」**の検討。



## 公園事業・集団施設地区の再生・上質化

- (1) 集団施設地区など公園利用の拠点となるエリアの**「廃屋化・機能低下が進行」**。**「地域とともに、エリアの再生・上質化のためのマスタープランを作成」**し、廃屋撤去、新たな投資、機能充実、景観デザインの統一等を推進。
- (2) 新たな廃屋化の防止のため、中小企業庁等と適切な連携体制を構築し、**「公園事業者の事業再生、円滑な事業終了の支援等」**。
- (3) 権原の譲渡や所有・経営・運営の分離に対応するため**「権原の譲渡の手続き新設と地位承継、措置命令」**。



国立公園訪日外国人利用者数の推計について

参考資料2

当推計は、観光庁「訪日外国人消費動向調査(全国調査)」の調査票情報を利用し推計したもので、具体的な推計手順は以下のとおり。  
 ①訪日外国人消費動向調査の「訪問地選択コード」のうち、国立公園内の観光地等を抽出(680の訪問地選択コードのうち139を抽出)  
 ②訪日外国人消費動向調査における訪問地ごとの選択率(当該訪問地の回答数/有効回答数)を算出。  
 ③訪日外国人の母集団構成に合わせるため、上記②について国籍・地域別及び出国港別ウェイトバックを実施(平成29年以前は国籍・地域別ウェイトバックのみ)。  
 \*日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」及び法務省「出入国管理統計」をウェイトとして使用。  
 ④JNTO「訪日外客数」の総数に、上記③のウェイトバック後の選択率を乗じ、推計。

公園名	訪日外国人利用者数																	
	H27		H28		H29		H30				H31/R1							
	推計実利用者数 (千人)	標準偏差 (%)	推計実利用者数 (千人)	標準偏差 (%)	推計実利用者数 (千人)	標準偏差 (%)	推計実利用者数 (千人)	前年増減 (%)	標準偏差 (%)	(参考)推計実利用者数 (95%信頼区間) *2(千人)	推計実利用者数 (千人)	前年増減 (%)	標準偏差 (%)	(参考)推計実利用者数 (95%信頼区間) *2(千人)				
1 利根川サロベツ	5	31.6%	14	21.1%	10	26.9%	13	35.5%	26.6%	6	~	20	9	-31.7%	31.6%	3	~	15
2 知床	21	15.4%	28	14.5%	20	18.7%	38	84.3%	15.8%	26	~	49	14	-63.7%	25.8%	7	~	21
3 阿寒摩周	63	8.9%	58	10.2%	57	11.2%	58	2.4%	12.7%	44	~	72	51	-12.2%	13.4%	38	~	64
4 釧路湿原	34	12.0%	27	15.0%	39	13.5%	42	8.1%	15.0%	30	~	54	34	-18.0%	16.2%	23	~	45
5 大雪山	64	8.8%	83	8.5%	60	10.9%	80	32.5%	10.8%	63	~	97	83	3.9%	10.4%	66	~	100
6 支笏洞爺	688	2.6%	827	2.7%	901	2.8%	1,068	18.4%	2.9%	1,006	~	1,129	959	-10.1%	3.0%	902	~	1,016
7 十和田八幡平	7	26.7%	22	16.6%	19	19.5%	29	55.8%	17.9%	19	~	40	34	16.8%	16.3%	23	~	45
8 三陸復興	10	22.4%	16	19.2%	15	21.6%	13	-14.8%	26.9%	6	~	20	23	76.4%	19.9%	14	~	32
9 磐梯前田	0.5	100.0%	4	39.4%	9	27.4%	6	-36.7%	39.6%	1	~	11	11	83.3%	28.8%	5	~	17
10 日光	190	5.1%	241	5.0%	271	5.1%	304	12.2%	5.5%	271	~	337	276	-9.4%	5.7%	245	~	307
11 尾瀬	-	-	2	53.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	128.4%	0	~	2
12 上信越高原	214	4.8%	265	4.7%	322	4.7%	341	5.7%	5.2%	306	~	376	354	3.9%	5.0%	319	~	389
13 秩父多摩甲斐	19	16.2%	22	16.5%	10	26.7%	11	12.4%	29.0%	5	~	18	12	7.7%	27.5%	6	~	19
14 小笠原	-	-	0	133.5%	-	-	2	-	72.4%	0	~	4	2	38.7%	60.4%	0	~	5
15 富士箱根伊豆	2,341	1.4%	2,577	1.4%	2,580	1.6%	2,991	15.9%	1.7%	2,892	~	3,090	3,093	3.4%	1.6%	2,994	~	3,192
16 中部山岳	338	3.8%	351	4.1%	382	4.3%	376	-1.5%	5.0%	339	~	413	351	-6.6%	5.1%	316	~	386
17 妙高戸隠連山	8	24.2%	6	32.5%	13	23.4%	14	9.4%	25.7%	7	~	21	17	18.3%	23.2%	9	~	24
18 白山	3	40.8%	1	66.3%	2	68.3%	4	147.4%	49.8%	0	~	7	8	99.9%	34.7%	2	~	13
19 南アルプス	-	-	1	93.6%	2	57.2%	1	-69.0%	117.9%	0	~	2	0.2	-73.1%	223.5%	0	~	1
20 伊勢志摩	33	12.2%	61	9.9%	76	9.7%	49	-35.6%	13.9%	36	~	62	71	44.6%	11.3%	55	~	86
21 吉野熊野	53	9.7%	59	10.1%	67	10.3%	63	-5.9%	12.2%	48	~	78	64	2.7%	11.9%	49	~	79
22 山陰海岸	32	12.4%	50	10.9%	43	12.8%	41	-5.5%	15.1%	29	~	53	46	11.1%	14.1%	33	~	58
23 瀬戸内海	296	4.1%	310	4.0%	387	4.3%	676	75.0%	3.7%	627	~	725	671	-0.8%	3.6%	623	~	719
24 大山隠岐	6	28.9%	14	20.8%	11	25.5%	5	-57.0%	44.7%	1	~	9	12	152.3%	27.7%	5	~	18
25 足尾宇和島	0.5	100.0%	5	35.4%	5	38.3%	1	-85.9%	117.3%	0	~	2	3	357.3%	53.9%	0	~	6
26 西海	55	9.5%	74	9.0%	56	11.3%	45	-18.9%	14.4%	32	~	58	65	44.7%	11.8%	50	~	81
27 豊田天草	28	13.2%	29	14.4%	25	16.8%	23	-10.4%	20.4%	14	~	32	15	-34.7%	24.8%	8	~	22
28 阿蘇くじゅう	682	2.7%	675	2.9%	926	2.7%	1,034	11.7%	3.0%	974	~	1,094	752	-27.3%	3.4%	702	~	803
29 霧島錦江湾	71	8.3%	79	8.7%	129	7.4%	142	10.7%	8.1%	120	~	165	120	-15.8%	8.7%	99	~	140
30 鹿児島	10	22.4%	17	19.0%	25	16.8%	17	-31.7%	23.4%	9	~	25	22	28.4%	20.3%	13	~	31
31 奄美群島	6	35.0%	-	-	6	35.0%	2	-73.0%	77.3%	0	~	4	2	58.8%	60.4%	0	~	5
32 やんばる	-	-	-	-	-	-	22	-	20.8%	13	~	31	15	-30.8%	24.6%	8	~	22
33 鹿児島諸島	-	-	-	-	-	-	27	-	18.5%	18	~	37	24	-12.5%	19.4%	15	~	33
34 西表石垣	12	20.4%	14	20.8%	14	22.7%	32	129.5%	17.2%	21	~	42	12	-61.1%	27.2%	6	~	19
合計(選定された8公園 *3)	1,052	-	1,150	-	1,488	-	1,649	10.8%	-	1,574	~	1,724	1,340	-	2.6%	1,273	~	1,407
合計(各公園計)	5,284	0.8%	5,932	0.9%	6,482	0.9%	7,569	16.8%	1.0%	7,425	~	7,713	7,228	-4.5%	1.0%	7,088	~	7,368
合計(推計実利用者数)	4,902	0.9%	5,457	0.9%	6,001	1.0%	6,940	15.7%	1.0%	6,800	~	7,080	6,669	-3.9%	1.0%	6,533,344	~	6,804,918
訪日外客数全体 *4	19,737	-	24,039	-	28,691	-	31,192	8.7%	-	-	-	-	31,882	2.2%	-	-	-	-

(参考)推計外国人延べ宿泊者数(千人)				
H29	H30	前年増減 (%)	H31/R1	前年増減 (%)
0.06	0.05	-21.3%	0.06	16.7%
2	3	28.4%	2	-48.1%
100	126	26.4%	148	17.4%
0.04	0.1	227.5%	0.01	-93.9%
106	111	5.2%	79	-29.1%
1,482	1,345	-9.2%	1,010	-24.9%
56	73	30.2%	88	21.7%
0.6	0.3	-44.0%	0.8	141.5%
23	22	-4.0%	39	78.7%
72	93	29.6%	141	51.6%
-	-	-	-	-
74	71	-3.6%	172	142.3%
5	4	-7.6%	8	88.7%
-	-	-	-	-
1,747	2,239	28.1%	2,394	6.9%
121	103	-15.3%	152	48.5%
55	35	-36.9%	25	-27.2%
0.5	6	1307.8%	4	-41.9%
0	0	-	0	-
81	82	1.1%	89	8.6%
95	59	-38.0%	66	11.1%
85	82	-4.5%	89	8.8%
220	204	-7.6%	229	12.5%
14	9	-37.5%	18	103.5%
7	4	-38.4%	5	20.5%
0.07	0.1	101.1%	0.1	-19.0%
17	10	-40.6%	23	119.3%
294	350	19.4%	241	-31.3%
86	91	6.4%	86	-5.9%
0.3	2	753.8%	0	-100.0%
0.2	0.1	-35.5%	0.2	101.9%
4	5	41.0%	5	-11.5%
31	47	52.0%	48	2.6%
28	59	105.9%	40	-32.0%
733	871	18.9%	859	-2.6%
4,806	5,236	8.9%	5,201	-0.7%

---車ごとの上位10公園  
 ■---参考値 \*3

(訪日外国人利用者数の推計値についての注意点)

- \*1 推計実利用者数: 当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用して1人と数える。また、合計(選定された8公園)及び合計(各公園計)は、1人の利用者が2つの公園に訪れると2人と数え、合計(実利用者数)は、1人の利用者が複数の公園を訪れても1人と数える。千人単位で四捨五入している。
- \*2 95%信頼区間: 同じ母集団の標本調査を100回行うと、そのうち95回はこの区間の中に母平均が含まれる。
- \*3 国立公園調査プロジェクトにおいて先行的・重点的に取組を進めるとされた公園: 阿寒摩周国立公園、十和田八幡平国立公園、日光国立公園、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、鹿児島諸島国立公園。
- \*4 訪日外客数全体・出典: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」
- \*5 標準誤差率が30%以上の公園については、サンプル数が少なく信頼性が低いので、参考値とする。取り扱いには十分注意し、転載や二次使用する際には、信頼性の低い参考値であることを明記し、その旨を理解して使用すること。(特に、「訪日外国人消費動向調査」の調査対象空港が少ない場所においては、捕捉率が低くなっている可能性がある。)

※平成29年以前の「鹿児島諸島国立公園」及び「やんばる国立公園」は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択コードに該当する地点が無かったため、推計対象外。  
 ※平成27年の「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」「南アルプス国立公園」、平成29年の「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」及び平成30年の「尾瀬国立公園」は、標本数が0(欠損)のため推計不可として扱った。  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

(推計外国人延べ宿泊者数(参考)についての注意点)

- ※H29~H30の推計値については、対象とする標本及び推計手法の精査によりR2に修正を行った。
- ※延べ宿泊者数: 当該国立公園内の宿泊施設の利用者数の合計人数(子供や乳幼児を含む)。1人の利用者が複数の宿泊施設を利用すると重複して計上される (例: 1人の利用者が3つの施設を利用すると3人泊)。
- ※「尾瀬国立公園」及び「小笠原国立公園」は、標本数が0のため推計不可として扱った。
- ※この推計は、「宿泊旅行統計調査(観光庁)」のデータを利用し推計したもので、推計にあたっては宿泊旅行統計が用いられている母集団各々の内、国立公園区域内に含まれている宿泊施設を抽出して実施した。このため、特に国立公園区域内に存在する宿泊施設が少ない国立公園については、地域の宿泊実態との誤差が大きい可能性がある。
- ※各宿泊施設が公園内にあるかどうかは「CSVアドレスマッチングサービス」を用いて判定している。サービスの精度及び各宿泊施設の宿泊旅行統計調査の調査情報の詳細によって、正しい位置を示していない宿泊施設もある。(正しい位置を示すことのできない宿泊施設については、町村レベルもしくは審判レベルの代表地点に位置するものとして扱われている。)
- ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

## スタート時の課題指摘

【第1回】

- ◆ 日本の国立公園に対する世界的な認知度が不足している。
- ◆ 観光の視点からの有益な国立公園に関する情報が国から発信されていない。
- ◆ 施設が観光客目線で整備されていない。
- ◆ 奥深さを知ってもらうのにガイドが不可欠。
- ◆ 個人旅行者受入の交通手段その他環境整備が不十分。

【第2回】

- ◆ 受入地域の推進部隊があるのか、実際にできるか、地域の持続的な予算確保できるかといった視点も重要。

【第3回】

- ◆ 奥行き論、キャリングキャパシティの視点が必要。
- ◆ 資金がどのようについてくるか、どのように現金化するか考えるべき。

【第4回】

- ◆ 解説版が不足、内容も外国人には難解。
- ◆ トイレ等の設備や景観を楽しんでもらう工夫ができていない。
- ◆ 富裕者層向けも含め利用者に応じた宿泊施設の多様性に乏しい。
- ◆ キャンプ場を観光施設に変えていくべき。
- ◆ 廃屋が著しく景観を害している。

## 満喫プロジェクトの基本的な視点

- ① 最大の魅力は自然そのもの
- ② 暮らしや文化とともにある国立公園
- ③ 体積で考える
- ④ 多様なニーズに対応した楽しい国立公園
- ⑤ 広域的な視点で考える
- ⑥ 利用者目線から現場を改善する
- ⑦ サステナビリティの視点を取り入れる

## 満喫プロジェクトの成果

### 国立公園を訪れる外国人訪問者、泊数、消費額、満足度の増加／向上

- 国立公園における外国人利用者数は年々増加。2018年は全国の訪日外国人旅行者数の伸び率を上回る伸び。2019年1～9月は、韓国等の影響により前年度同期比1%減。
- 満足度、支出額、宿泊数等の質の指標について、利用者に対するアンケート調査を実施  
外国人で満足した割合は96.5%、2回目以上のリピーター率は14%（11公園2019年暫定値）
- 自然保護の役割を担いながらも、自然の魅力を生かして利用推進を図る自然公園行政の転換。
- 地域の経済効果につなげ国立公園を地域資源として関係者が改めて認識、利用が保全につながる仕組みづくりそのものや自然環境の価値の高まりによる、保護と利用の好循環に向けて前進（利用者負担による保全の仕組み作り（14事例））

### 1 外国人旅行者受入のための基盤整備の進展

- 屋外の案内解説板、ビジターセンター展示解説の多言語化（23箇所、整備率91%）
- ビジターセンター等の改修/新築（15箇所、整備率93%）、Wi-Fi整備（17箇所、整備率100%）、最新デジタル展示による理解促進（7箇所）
- トイレ洋式化（24箇所、整備率96%）、展望施設（2箇所、整備率67%）、歩道（16箇所、整備率94%）（※整備率は先行8公園の直轄施設における数値（R1年度工事中等含む））
- JNTOサイト内に国立公園サイト（英語）を設置し、同サイトへの誘導を実施（PV数 当初約6,000/月 → 現在約37,000/月）

### 2 コンテンツの磨き上げ、地域における受入体制の強化や景観の改善

- 国立公園のストーリー性を重視したコンテンツ造成及び販売支援による誘客強化
- ガイド等の人材育成や地域における一元の窓口の設置促進による受入体制の整備、ビジターセンターにおけるアクティビティ情報の発信
- 廃屋撤去（5箇所）、地域が一体となった利用拠点滞在環境の上質化（R1年度事業化）

### 3 多様な宿泊サービス充実、公共施設民間開放、民間との連携強化

- 宿舍事業あり方（H30.9）、分譲型ホテル等認可基準（R1.9）→ホテル進出の機運増大
- グランピングの導入促進（これまでに6事業者と連携）
- 環境省所管地の使用許可期間を3年から10年に延長（H29.10）
- 民間事業者によるカフェ等の案件形成（6箇所）、野営場の再整備～運営を民間一括実施
- オフィシャルパートナーシップ企業 75社、REVIC観光遺産産業化ファンド設立
- 二次交通改善の取組数 37箇所

### 4 プロモーション強化

- 国立公園統一マーク、ブランドスローガン、国立公園フォントによるブランディング、これらを活かした国立公園の認知向上
- 旅行博や各種メディア等も用いた情報発信による認知向上

### 5 関係者との連携体制強化

- 多様な主体が連携して受入環境を整備、国立公園の魅力を向上。開始前にはなかった取組を数多く実施。

## 現状課題

- 「1000万人目標」に向けた更なる取組。
- 人数の指標のみであり、質の指標は全体的な傾向に対応。個別の取組の効果を直接的に反映していない。
- 保護と利用の好循環の成果を上げるには地域における継続的な取組が必要。

取組進捗・手法等の蓄積

- 8公園における主要な利用拠点やアクセルト上の直轄施設への対応は概ね完了。今後、自治体、民間を含め、エリア一帯における多言語化等受入環境の充実が必要。
- 国立公園サイトの充実（利便性・コンテンツ拡充・多言語化（中国語対応）等）が必要。

継続取組

- 自然コンテンツに加えた文化資源等との連携も必要。
- 外客対応可能なガイド・インタープリターが不足。
- ビジターセンター等の人的な多言語対応が必要。
- 廃屋撤去、撤去後の新たな民間参入による魅力ある利用拠点再生は取組途上。

継続取組

- 新基準等による上質なホテル・旅館の増はこれから。
- ニーズに基づいた民間事業者の広がりによるグランピングの更なる拡大が見込まれる。
- 民間のサービス展開への継続的な金融支援が引き続き課題。
- オフィシャルパートナーシップの継続と具体的成果の促進が必要。
- 二次交通改善事例の継続的な蓄積が必要。
- 国立公園のブランディングと効果的なプロモーションによる国立公園の認知度向上は取組途上。
- デジタルマーケティングによるターゲットを絞った効果的・効率的な誘客促進が必要。
- DMOとの連携は取組途上。
- 関係者との連携体制の維持・継続が有効。
- 広域連携及び他の観光資源との連携など、目的地として選ばれるための重層的な魅力形成はこれから。

受入環境の整備

サービスの向上、プロモーション強化等

国立公園満喫プロジェクト有識者会議  
委員名簿

<敬称略・五十音順>

【学識者】

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

わくいしろう  
涌井史郎（東京都市大学特別教授） ※座長

【観光関係者】

いしいたる  
石井 至（株式会社石井兄弟社社長）

えざききく  
江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

ほしのよしはる  
星野佳路（星野リゾート代表）

【ジャーナリスト・ライター】

のぞえ  
野添ちかこ（温泉と宿のライター）